

平成26年度

学位論文

唐代の楷書

文字比較による考察

奈良教育大学大学院

教育学研究科修士課程

教科教育専攻 美術教育（書道）専修

学生番号 123613

宮下美智子

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 1
第1章 「文字造形の一考察—九成宮醴泉銘—」の観点に基づいた 九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑の同文字比較、分析・・・・・・・・	p. 3
第2章 他の観点による九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑の同文字比較、分析・・・・・・・・	p. 44
第3章 九成宮醴泉銘、真草千字文（智永）楷書の比較、分析 絵画との比較・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 53
結論・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 59
参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 61
九成宮醴泉銘の書風作品の写真	
孔子廟堂碑の書風作品の写真・・・・・・・・	p. 62
作品の釈文・・・・・・・・	p. 63

はじめに

唐代の代表的な楷書、九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑は、ともに楷法の極則と称され、長い歴史の中で多くの人々に親しまれてきた。九成宮醴泉銘は、縦長背勢の構築的な構造、孔子廟堂碑は、のびのびと穏やかな向勢で嫌味や癖がなく気品が高いと説明されている。

両法帖の違いを解説している書物は多く、高等学校教科書 書道 I でも両法帖の違いに気づかせ、書法を理解させることを目標としている。

ここでは敢えて両法帖の造形的な共通点にはどんなものがあるか、さまざまな観点から見つけ出し普遍性を導き出していきたい。共通点を見つけることにより、相違点もいっそうはっきりしてくると思う。

第1章では「文字造形の一考察—九成宮醴泉銘—」の観点に基づいた九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の同文字比較、分析を試みた。その観点は次の通りである

偏と旁の高さについて

①偏の底の線は横画で旁の底の線は縦画である場合、偏の下に余白を作るとよい。

(ア) 旁の上部が横画の場合

(イ) 旁の上部が縦画の場合

(ウ) 両法帖で旁の位置が異なる場合

②底部が偏は縦画、旁が横画の場合は、旁の下に余白を作るとよい。

③底部が偏も旁も横画の場合は偏の下に余白を作るとよい。

④底部が偏も旁も縦画の場合は、偏の下に余白を作るとよい。

(ア) 旁の上部が縦画の場合、旁を偏より上から書き、偏の上にも余白を作る。

(イ) 偏の上部が縦画の場合、旁を偏より上から書き偏の上にも余白を作る。

(ウ) 両法帖で旁の位置が異なる場合

偏と旁の幅について

①偏と旁が同じ画数、あるいはよく似た画数の場合は、偏と旁を同じ幅にするとよい。

②旁の画数が偏の画数より多い場合は、旁の幅を広げて書くとよい。

③偏の画数が旁の画数より多い場合は、偏の幅を広げて書くとよい。

※例外1として、右払いなどを含む文字

※例外2として、偏と旁で同じ形を繰り返す場合。

また、旁の画数による偏の幅の変化では「仁」と「使」など5例を、偏の画数による旁の幅の変化では「惟」「離」など4例を挙げた。さらに、単体から部分への変化として、偏への変化で9例、旁への変化で7例、冠への変化で1例、脚への変化で2例を示した。また、同じ形を縦に二つ書く場合について比較、分析をした。

第2章では、他の観点による比較、分析として、横画の強調、横画の反り具合を取り上げた。

第3章では九成宮醴泉銘と智永の真草千字文の楷書との比較を試みた。真草千字文の楷書は行書に近いものが多いが、九成宮醴泉銘との共通点が多々あるかどうか興味の示すところであった。さらに、絵画（肖像画）にも文字の造形上の特徴との共通点があるか比較してみた。

主論である九成宮醴泉銘の書風、孔子廟堂碑の書風の創作作品（各二・八サイズ 縦 228×横 53 cm）制作のために、この研究を生かしていくことを目的とする。

第 1 章

「文字造形の一考察—九成宮醴泉銘—」の観点に基づいた

九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑の同文字比較、分析

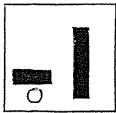
「文字造形の一考察—九成宮醴泉銘—」に書かれていることを、九成宮醴泉銘だけでなく、孔子廟堂碑にも当てはまるかどうかを考察していく。

1、偏と旁の高さについて

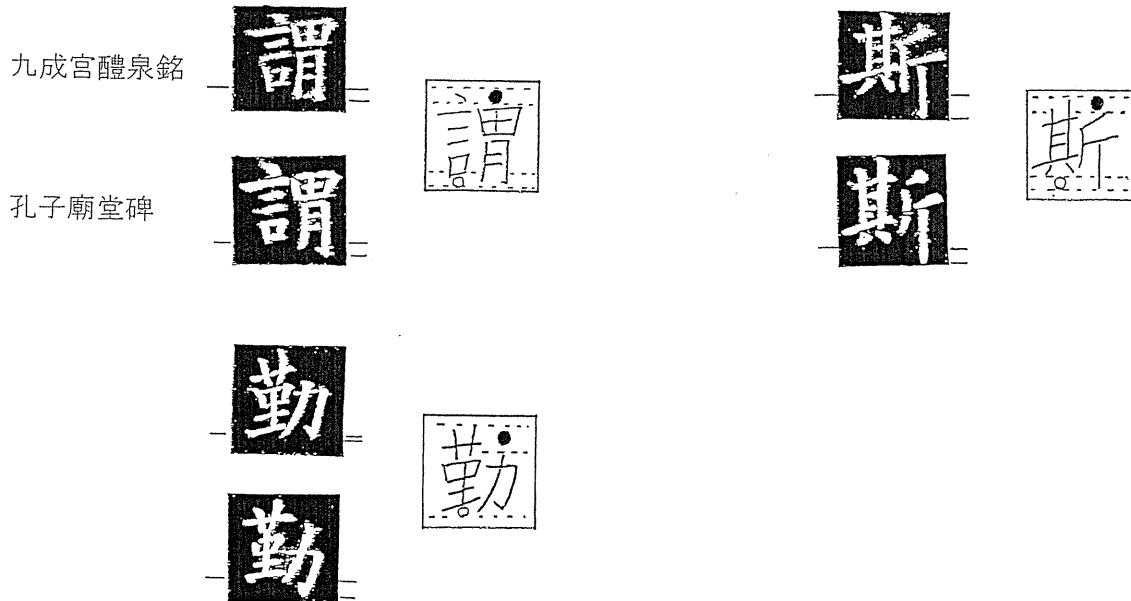
偏と旁から成る字は、その字の高さがそろってはいけない。

それには、次の四つの種類がある。

- ① 底の線が、偏は横画で旁は縦画である場合、偏の下に余白を作るとよい。(○)

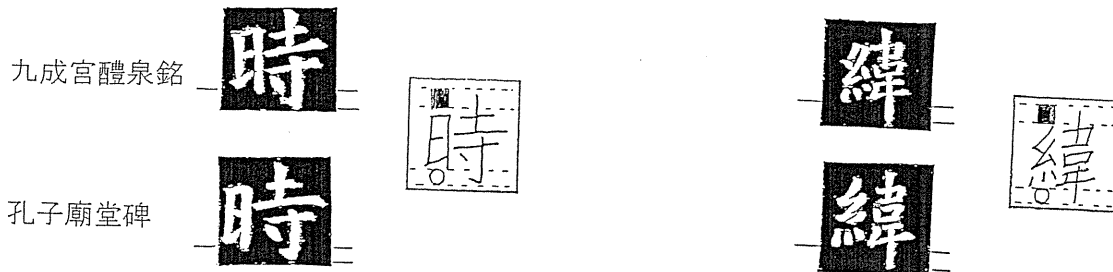


- (ア) 旁の上部が横画の場合、旁を下げて上部に余白を作る。(●)



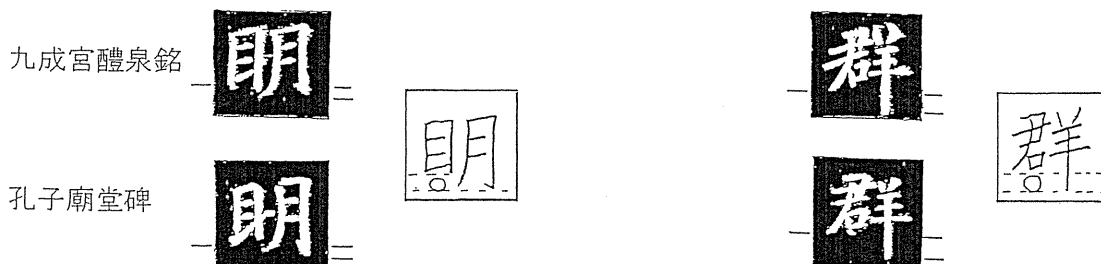
- ・「謂」は、旁の「月」の2本の縦画を偏の「言」の最終画より下に出す。旁は上部が横画なので、偏の上のラインより少し下げて書き始め、偏の下と旁の上に余白を作る。
- ・「斯」は、「其」の2つの点の位置より「斤」の最終画を下に伸ばす。「斤」の上部が横画なので「斤」は「其」より少し下から書き始める。偏の下と旁の上に余白を作る。
- ・「勤」は旁の「力」の2画目上部が縦画だが、偏の「堇」より少し下げた位置から書き始め、払いが偏の最終画より下に来るようにする。偏の下と旁の上に余白を作る。

(イ) 旁の上部が縦画の場合、旁を偏より上から書き、偏の上にも余白を作る。(■)



- ・「時」は、「日」を縦長に書き、「土」の縦画を「日」より上に出す。「土」の3画目の横画は2画目と中央より左で接し右側を多く出す。「寸」の縦画は「日」の最終画より下に出し、「日」の上にも下にも余白を作る。「寸」の縦画は横画の右寄りでなく中央寄りにする。
- ・「緯」は「糸」の3つの点の位置より旁の最終画を下に長く伸ばし、「糸」の下に余白を作る。旁の上部の縦画は「糸」より上に突き出す。つまり、「糸」の上にも下にも余白を作る。

(ウ) 九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑で旁の位置が異なる文字もあるが、偏の底部が横画で旁の底部が縦画の場合、偏の下に余白を作ることは共通している。

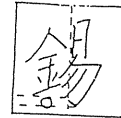


- ・「明」は、九成宮醴泉銘は「目」と「月」の上部が揃い、孔子廟堂碑は「月」のほうがやや上がっているが偏の「目」の下に余白を作ることは共通している。偏の「目」の最終画の右上がり強くし、「目」の下に余白を作り易くする。
- ・「群」は、九成宮醴泉銘は偏と旁の上部が揃っていて、孔子廟堂碑は「羊」が少し下がっている。「君」は右上がり、「羊」の横画は仰、平、覆にする。旁の縦画を長く伸ばし、「君」の下に余白を作ることは共通している。

九成宮醴泉銘



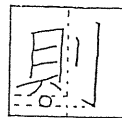
孔子廟堂碑



九成宮醴泉銘



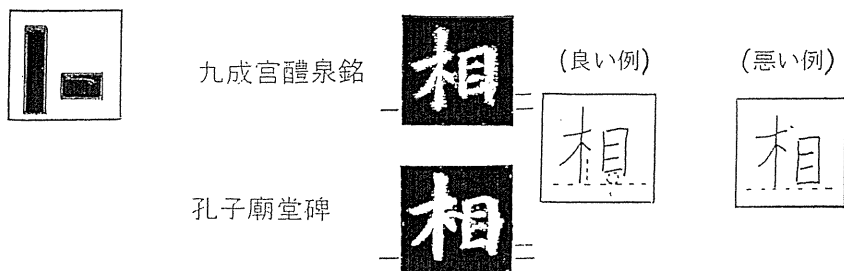
孔子廟堂碑



- ・「録」は、九成宮醴泉銘は偏と旁の上部が揃っていて、孔子廟堂碑は「录」のほうがやや下がっているが「金」の下に余白を作ることは共通している。旁の5画目の縦画を偏の「金」の最終画より下に伸ばす。但し、点は縦画より上で終わるようにする。
- ・「錫」は、九成宮醴泉銘は偏と旁の上部が揃っていて、孔子廟堂碑は「易」のほうがやや下がっているが、金の下に余白を作ることは共通している。旁の5画目の「フ」の部分、偏の「金」の最終画より下まで伸ばしてからねる、または止める。旁の最終画の払いも「金」の最終画より下に来るようにする。
- ・「則」は、「貝」の2つの点の位置より「リ」の2画目を下に伸ばしてからね、「貝」の下に余白を作る。「リ」は上部が縦画なので「貝」より少し上から書き始め、偏の上にも下にも余白を作る。

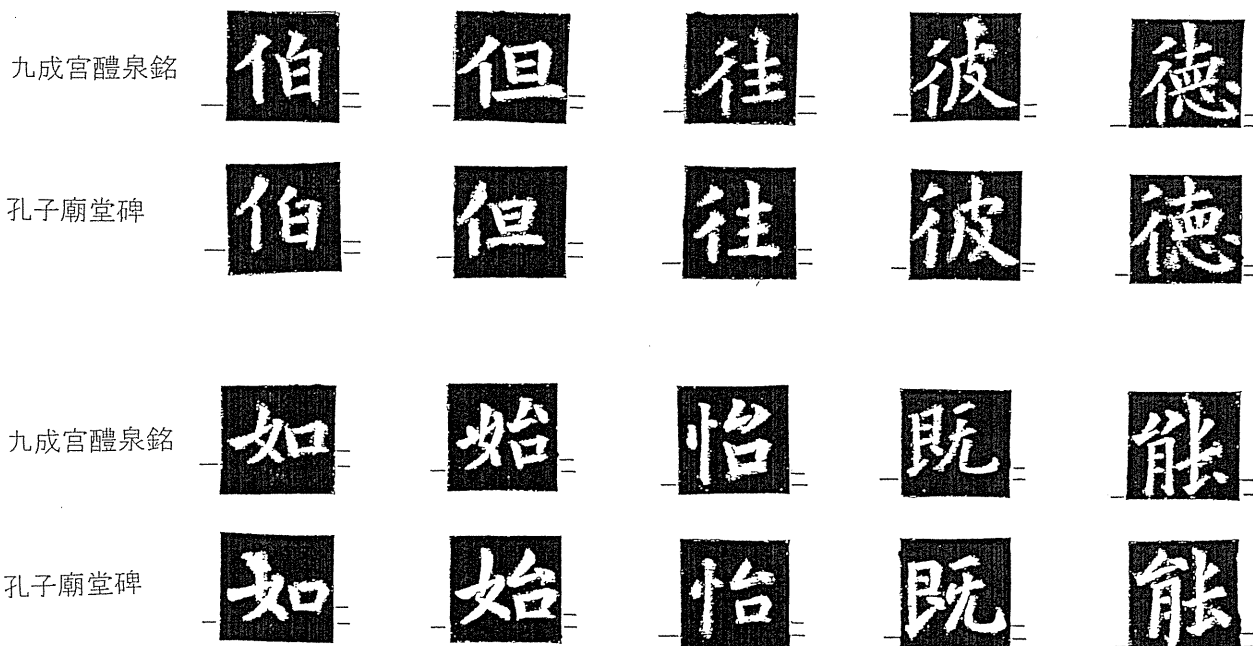
以上10文字について「① 偏の底の線は横画で旁の線は縦画である場合、偏の下に余白を作るとよい。」が九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

② 底部が偏は縦画、旁が横画の場合は、旁の下に余白を作るとよい。



- ・「相」は、偏の「木」が縦画で、旁の「目」が横画である。この場合、「目」の下に余白を作る。また、「目」の上にも下より多くの余白を作る。「木」の縦画を伸ばすとも考えられる。
(悪い例)のように、「木」の縦画と「目」の横画を揃えると右下がりの重い感じとなる。

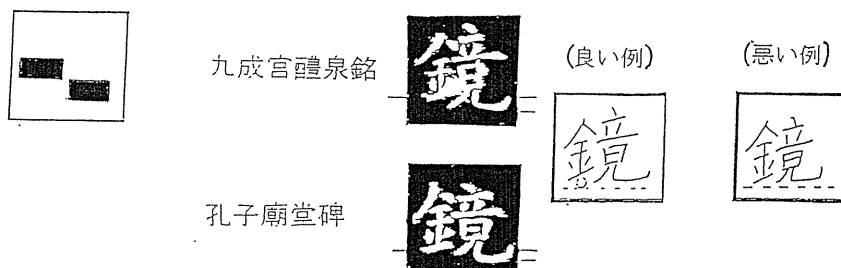
九成宮醴泉銘にも、孔子廟堂碑にも当てはまる他の文字は次の通りである。



- ・「伯」の「イ」の2画目は1画目に浅く接する。「白」の中の横画は右側の縦画と接しない。「白」の3画目の縦画は下に少し出すように5画目を書く。「白」の下に余白を作る。
- ・「但」の「イ」は「伯」と同じ。「旦」の「日」の中の横画は右側の縦画に接しない。最終画の横画は「日」よりも横に長くし安定感を出す。「旦」の下に余白を作る。
- ・「往」の「彳」は1画目と2画目の方向を変える。1画目はやや横方向、2画目は斜め左下方向。1画目の始筆の真下から2画目を書き始める。3画目は2画目に浅く接する。「主」の縦画は上に突き出す。「主」の下に余白を作る。
- ・「彼」の「彳」は「往」と同じ。「皮」の1画目は縦気味にし、2画目「㇇」を右上がりに、3画目は上に突き出す。左払いを短めに右払いを張り出す。「皮」の下に余白を作る。
- ・「徳」の「彳」は「往」と同じ。隣の「十」の縦画は上に突き出す。「𠂇」の2画目は内側へ折れる。「心」は「𠂇」より幅を広くし3画目の終筆部分と4画目の点は「𠂇」の右側に出す。
- ・「如」は、「女」の1画目を立てる。「女」の1画目と2画目の交差の右に「口」を書く。「口」の下に余白を作る。
- ・「始」の「女」は「如」と同じ。「台」の折れるところが「女」の3画目の終筆あたりに来るように書く。「台」と同じ幅に「口」を書き、「口」の下に余白を作る。
- ・「怡」は、「台」の折れるところが「忄」の2画目のあたりに来るように書く。「台」と同じ幅に「口」を書き、「口」の下に余白を作る。
- ・「既」は、「艮」の上の線よりやや上から「𠂇」を書き始め「𠂇」の下に余白を作る。
- ・「能」は、「𠂇」の「ム」を右上がりに書き、「月」の中の2本の横画は右側の縦画に接しない。「𠂇」の下に余白を作る。

以上11文字について「② 底部が偏は縦画、旁が横画の場合は、旁の下に余白を作るとよい。」が九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

③ 底部が偏も旁も横画の場合は、偏の下に余白を作るとよい。

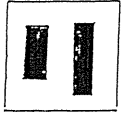


- ・「鏡」は、偏の「金」の下に余白を作る。「金」の最終画は右上がりにする。「竟」の1画目の点は2画目に接しない。3、4画目の点も上下の横画から少し離すか浅く接する。10画目の左払いを短めに「金」の最終の右上がりの下に入り込ませる。「竟」の最終画は右へ張り出してからはねる。
(悪い例)のように、偏と旁の底辺を揃えると、「竟」の左払いが窮屈になる。

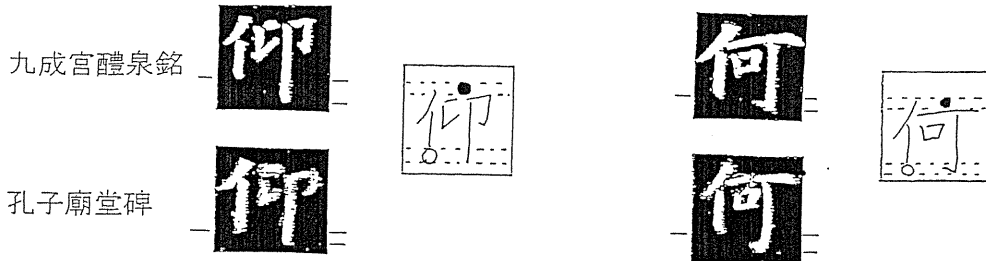


- ・「紀」「維」については、九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑で「いとへん」の形が異なる。
九成宮醴泉銘は偏が縦画、旁が横画（②の場合）、孔子廟堂碑は偏も旁も横画（③の場合）となるが、どちらにしても旁「己」「隹」の下に余白を作るとよい。

④ 底部が偏も旁も縦画の場合は、偏の下に余白を作るとよい。(○)

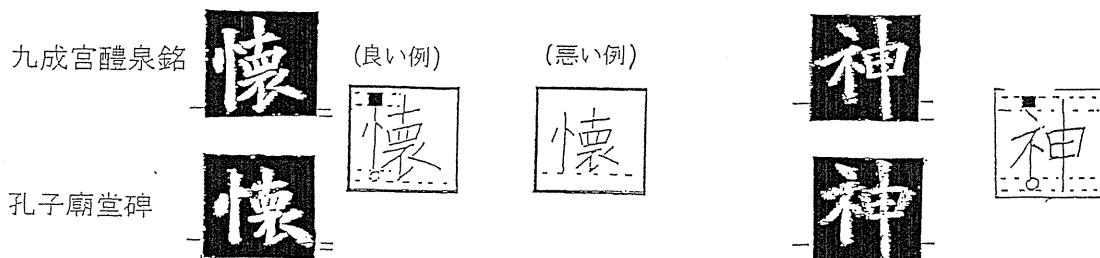



(ア) 旁の上部が横画の場合、旁を下げて上部にも余白を作る。(●)




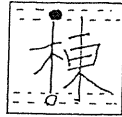
- ・「仰」の「イ」の2画目は1画目に浅く接する。「レ」は「イ」の縦画の半分ぐらいの長さにし、「卩」の縦画は「イ」の縦画よりも下に伸ばすことで「イ」の下に余白を作る。また、「卩」の上部が横画なので旁の上部にも余白を作る。
- ・「何」の「イ」の接し方は「仰」と同じ。「可」は1画目の横画を長くし「口」を文字全体の中心に据える。縦画は横画の真ん中より右の位置に軽く接して書き、「イ」よりも下まで伸ばしてからはね、偏の下に余白を作る。また、「可」の上部が横画なので旁の上部にも余白を作る。

(イ) 旁の上部が縦画の場合、旁を偏より上から書き偏の上にも余白を作る。(■)



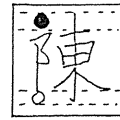
九成宮醴泉銘 

孔子廟堂碑 








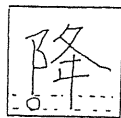


- ・「懷」は、「忄」より「懷」の背を高くし「忄」の下に余白を作る。「懷」の2画目の縦画は長く上に突き出す。「𠂇」の2画目は内側に入れる。「衣」の最後の2画は上部の「𠂇」より右へ張り出す。また、旁の上部が縦画なので偏より上に出し、「忄」の上にも余白を作る。(悪い例)のように偏と旁の天地を揃えると縮こまった感じになる。
- ・「神」は「ネ」の2画目の横画の「折れ」の部分と1画目の点の位置を揃える。「申」の「日」の部分の中の横画は右側の縦画に接しない。旁の上部が縦画なので5画目の縦画は上も下も長く出し、「ネ」の上と下の両方に余白を作る。
- ・「棟」の「木」は縦画より右側(旁側)の幅を狭くする。「東」は1画目の横画より「日」の幅を広くし、旁の上部が縦画なので、6画目の縦画は上へ長く突き出した位置から書き始め「木」の縦画より下まで伸ばしてから軽くはね、「木」の上にも下にも余白を作る。
- ・「陳」の「東」は「棟」同様「𠂇」より背を高くし、「𠂇」の上にも下にも余白を作る。

(ウ) 九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑で旁の位置が異なる文字もあるが、偏も旁も底部が縦画の場合、偏の下に余白を作ることは共通している。

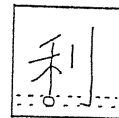
九成宮醴泉銘 

孔子廟堂碑 









・「降」の上部は、九成宮醴泉銘では偏より旁のほうが高く、孔子廟堂碑では偏と旁の位置が揃っている。「夆」は「𠂔」の上四分の一の位置に「夂」の交点が来るように書き、「𠂔」の部分が伸び伸びと書けるようにする。特に「𠂔」の縦画を伸ばし「𠂔」の下に余白を作るところは共通している。

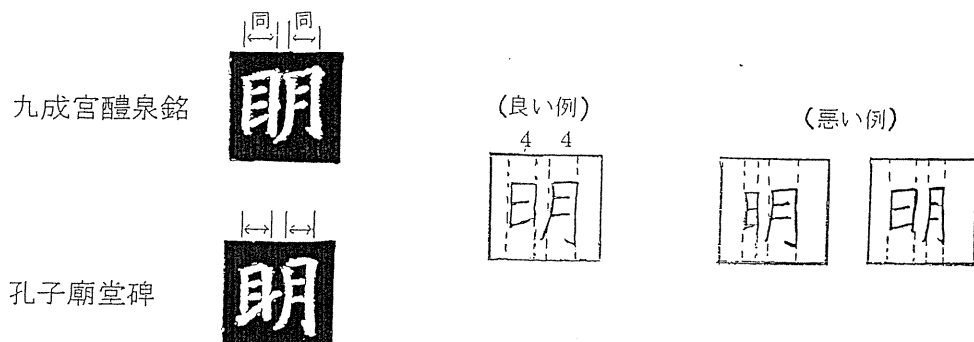
「利」の上部は、九成宮醴泉銘では偏より旁のほうが高く、孔子廟堂碑では偏と旁の位置が揃っている。「𠂔」の2画目を「禾」より長くし、偏の下に余白を作ることとは共通している。

以上、8文字について、「④ 底部が偏も旁も縦画の場合は、偏の下に余白を作るとよい。」が九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

2. 偏と旁の幅について

偏と旁から成る文字の幅については、次の三種類に大別できる。

- ① 偏と旁が同じ画数、あるいはよく似た画数の場合は、偏と旁を同じ幅にするとよい。



- ・「明」は偏が4（5）画、旁が4画である。偏の「目」の最終画を右上がりにする。偏と旁の中に入っている横画は3（4）本とも右側の縦画に接していない。「目」と「月」を同じ幅にする。（悪い例）のように偏と旁の幅を揃えないとバランスが悪くなる。

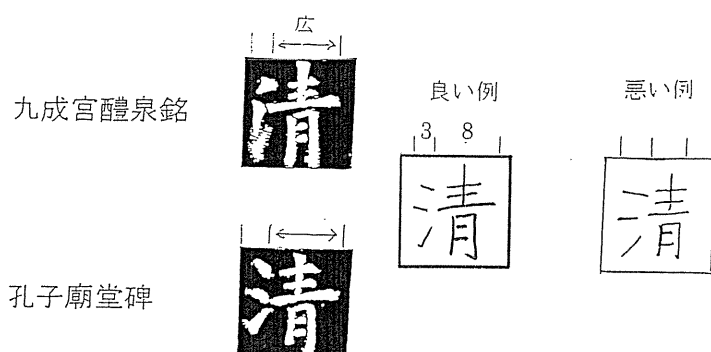
九成宮醴泉銘にも、孔子廟堂碑にも当てはまる文字は次の通りである。



- ・「功」は偏と旁の横画を同じ長さにすると幅が揃う。偏の「エ」は右上がり強くする。
- ・「如」は「女」の3画目を左に長く出し、横長の「口」とバランスをとると同じ幅になる。3画目は2画目より右には出さない。
- ・「所」は偏の「戸」と旁の「斤」の幅を同じぐらいに書く。
- ・「於」は偏の「才」の3画目の払いと旁の2画目の長さを考慮しバランスをとる。
- ・「相」は偏の「木」の横画の長さの範囲内に左払いを収め、「木」の横画の幅と旁の「目」の幅を揃える。「木」の2画目の縦画は1画目の横画の中心より右で交わる。つまり、「木」の中心は右へ寄る。
- ・「神」は偏の「フ」の部分の幅と、旁の「日」の幅を同じぐらいの長さにする。
- ・「經」は「糸」の全体の幅と「丕」の横画の長さを考慮する。
- ・「錫」は「金」の左払いの長さと旁の「フ」の幅を同じぐらいにする。旁上部の「日」の幅は狭くする。
- ・「録」は「金」の幅を広めにし「彳」の3画目の横画の長さに対応させている。

以上10文字について「① 偏と旁が同じ画数、あるいはよく似た画数の場合は、偏と旁を同じ幅にするとよい。」が九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

② 旁の画数が、偏の画数より多い場合は、旁の幅を広げて書くとよい。

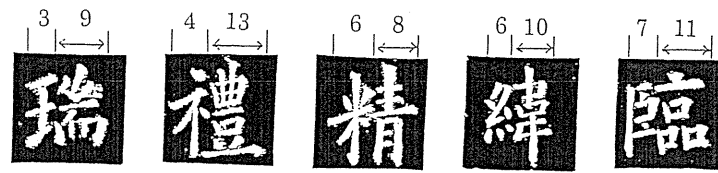


・「清」は偏が3画、旁が8画である。「冫」の3画目は右上向き縦方向にはねる。旁の画数が偏の画数より多いので、旁の幅を広げて書くとよい。旁の上部の横画3本は、3本目を長くする。縦画は上に突き出るようにする。「月」の中の短い横画は2画目の縦の部分に接しない。窮屈な感じにしないためである。(悪い例)のように、画数の少ない偏の幅を広げて書くと、バランスが悪くなる。

九成宮醴泉銘にも、孔子廟堂碑にも当てはまる文字は次の通りである。



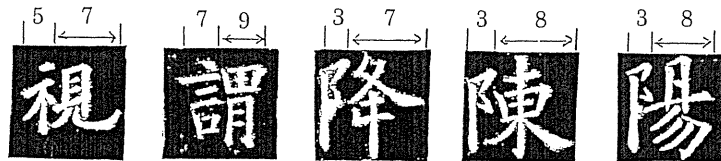
九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



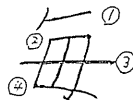
九成宮醴泉銘



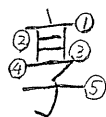
孔子廟堂碑



- ・「彼」は「彳」の画数が少なく、縦方向の画でできているので、2画目の払いを長めにする。旁の1画目の左払いは縦方向にし、「フ」で右上がりにする。旁の3画目の縦画は上に突き出るようにする。「皮」の最終画を上部の「フ」の幅より右に長く張り出す。
- ・「往」の「彳」は「彼」と同じ、旁の横画3本は仰、平、覆とし、横画は上に突き出るようにする。
- ・「怡」の「忄」は1画目の点を縦方向に止め、2画目の点は1画目より短くやや横方向に打ち、3画目の縦画は1画目とは離し2画目とは接する。旁は「ム」と「口」の幅を同じぐらいにする。旁の下に余白を作る。
- ・「波」の「氵」は「清」と同じ、「皮」は「彼」と同じである。
- ・「流」の「氵」は「清」と同じ、旁は点のあるなしで異なるが、最終画の「乚」を横に張り出しバランスを保つ。
- ・「海」の「氵」は「清」と同じ、「每」の2画目の横画①は右上がりに「母」の3本目の横画④は右下がり気味に、途中の横画②、③は、①、④の中間の角度とし、4本の横画が放射状になるように書く。③は右方向に長く突き出す。



- ・「淳」の「氵」は「清」と同じ、「享」は横画の1本を長く伸ばす。九成宮醴泉銘は⑤を、孔子廟堂碑は①を長くしている。



- ・「漢」の「讠」は「清」と同じ、「漢」の横画のうち1本を長く伸ばす。九成宮醴泉銘は⑤を、孔子廟堂碑は①を長くしている。最終画は他の画から離し、窮屈さをなくす。

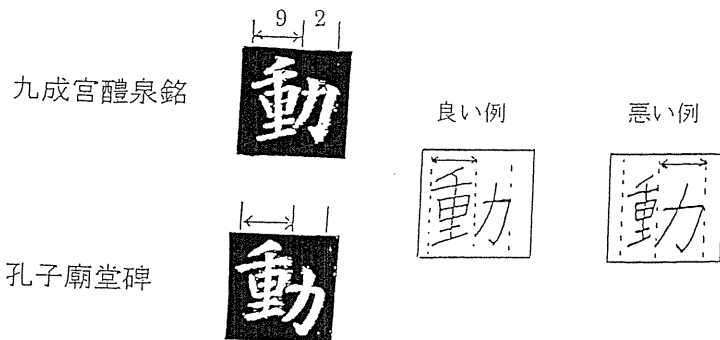


- ・「棟」の「木」の4画目は短く打つ。「東」の1画目の横画は短めにし「日」をやや幅広く、「左払い、右払い」でさらに幅を広くする。特に右払いは長めに張り出す。左払いは「木」の2画目と4画目の間に収まるようにする。
- ・「瑞」の「王」の4画目は右上がりにする。「山」の角度は両法帖で異なっているが、「而」の4画目を右に張り出してから内側へ曲げるところは共通している。「王」の4画目の右上がりの下のところに「而」の3画目を入り込ませる。
- ・「禮」の1画目の点は2画目の横画右寄りになるように書く。「豊」の上部の縦画2本は長く上に突き出るようにする。最終画をすぐ上の「丿」の左より右側に長く出す。
- ・「精」の「米」は1、2画目の点と3画目を離す。4画目の縦画は3画目より上に長く突き出し3画目の右寄りで交わる。6画目の点は短く打つ。「青」は「清」と同じ。
- ・「緯」の「糸」の形が両法帖で異なるが、「幺」と「𣎵」を同じくらいの幅にするとところは共通している。「五」の縦画は上に、「卅」の縦画は下に長く突き出るように書く。「卅」の2本目の横画は他の横画より長めにする。
- ・「臨」の1画目は7画目の横画より下に出す。1画目と2、4、5画目の横画は離す。傍の上部の形は異なるが、3つの「口」の大きさを変え、左下の「口」を小さめにするところは共通している。
- ・「視」の「ネ」の1画目は2画目の右寄りに来るように書く。3画目は2画目の右寄りの位置から書き始め下に伸ばす。左払いは2画目の横画の真下までとし、それより左へは出さない。
「見」は「ネ」の1画目の点より少し下の位置から書く。「見」の3、4画目は2画目の縦画に接しない。4画目は1画目の縦画より左へ出した位置から書き始める。6画目の払いは短めに、7画目は右へ大きく張り出してからはねる。
- ・「謂」は「言」の2画目を3、4画目より長くする。3、4画目と「口」の幅は揃える。「胃」は「言」よりやや下から書き始め、「言」より下がった位置で終わるようにする。「田」は逆台形の形にし、「田」の中の横画は左右の縦画に接しない。「月」の中の2本の横画は、右の縦画に接しない。
- ・「降」は「卩」の3画目の縦画を長くする。傍の「夨」は、左払いを短めに、右払いを伸び伸びとさせる。最終画を「卩」より長くする。

- ・「陳」の「阝」は「降」と同じ。「東」の「日」の2画目は内側へ入れる。縦画は偏より上に突き出るようにする。
- ・「陽」の「阝」も「降」と同じ。「易」は偏より少し上から書き始める。「日」の最終画と兼ねた横画を長くする。「勿」の中の2本の払いとは他の画に接しない。

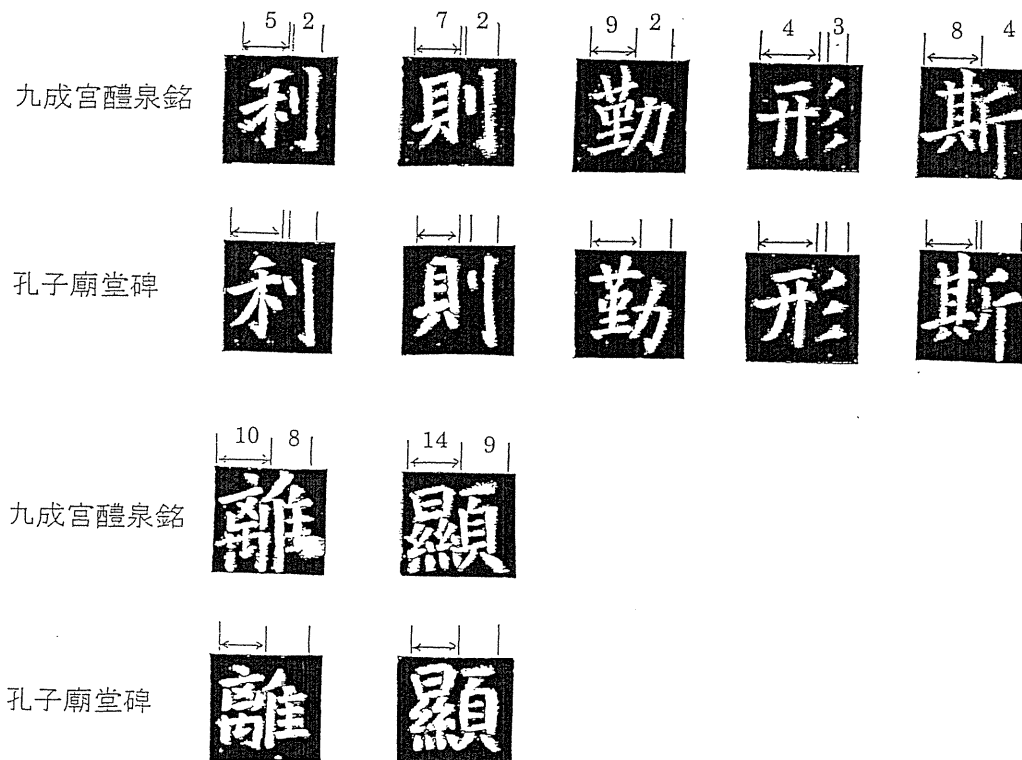
以上20文字について「② 旁の画数が偏の画数より多い場合は旁を広げて書くとよい。」が九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

③ 偏の画数が旁の画数より多い場合は、偏の幅を広げて書くといよい。

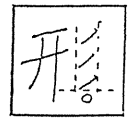


- ・「動」は偏9画、旁2画、偏の画数が多いので、偏を広げて書く。偏の横画は右上がりにする。旁の「力」は偏より少し下げた位置から書き「力」の上に余白を作る。(悪い例)のように偏と旁の幅を揃えたり画数の少ない旁の幅を広くしたりするとバランスが悪くなる。

九成宮醴泉銘にも、孔子廟堂碑にも当てはまる他の文字は次の通りである。



- ・「利」は偏5画、旁2画、「禾」の3画目の縦画は2画目の横画の中央より右で交わる。つまり、縦画より左側に多く出し、幅を作る。「リ」の2画目は「禾」よりもやや下げた位置まで伸ばす。
- ・「則」は偏7画、旁2画、偏の「貝」の5画目を左側に出し、幅を作る。2画目の縦画を長めにし、5画目より下に出す。「リ」については「利」に同じ。
- ・「勤」は偏9画、旁2画、偏の最終横画を左側に出し幅を作る。「動」と同様「力」の上に余白を作る。
- ・「形」は偏の横画を右上がりに書き、3、4画目の縦画の幅を取る。1、2画目の横画は4画目の縦画より右にはあまり出さない。旁の「彡」は1画1画角度を変え変化をつけるが、3本の起筆と終筆の位置は縦に揃うようにする。旁は偏よりやや高い位置に収め、旁の下に余白を作る。



- ・「斯」は偏8画、旁4画、偏の1、6画目の横画を長めにし、幅を作る。旁の「斤」の3画目の横画は右上がりで長めにし、最終画の縦画とのバランスを取る。
- ・「離」は偏10画、旁8画、偏の横画を右上がりにする。偏の上部下部とも枠で囲まれているので画と画をやや離し余白を作ることで、窮屈さを感じさせないようにする。旁の「隹」の2画目の縦画は偏と下部を揃え1画目の「ノ」の左端近くに書き、偏と旁の間を狭める。「隹」の横画4本は2画目の縦画と接しないか、ごく浅く接する。8画目の横画は2画目の縦画の下から少し上の位置に書き、下に余白を作る。
- ・「顯」は偏14画、旁9画、偏の上部の「日」を横長に書き「𠂔」を「日」より幅広く書く。「𠂔」は「𠂔」の下に収まるようにする。「頁」の1画目は右上がりにし、「目」の中の横画2本は右側の縦画に接しない。

以上8文字について「③ 偏の画数が旁の画数より多い場合は、偏を広げて書くとよい。」が、九成宮醴泉銘にも、孔子廟堂碑にも当てはまる。

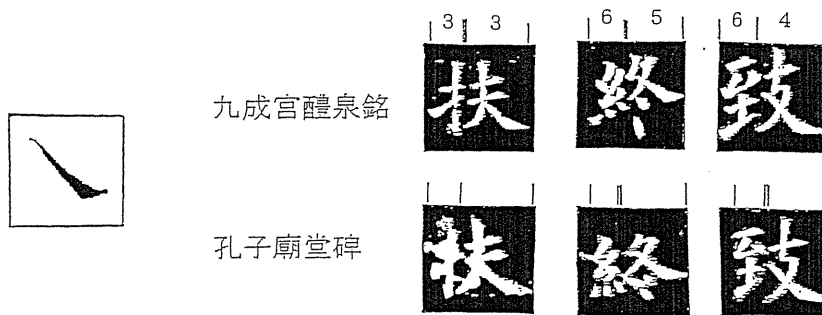
※ 例外1 書きにくい筆画を含んでいる場合

中国において漢字の楷書体が確立されたとき、その筆記用具は筆であった。右手に筆を持ち文字を書くとき、自ずと技術的に書きにくい筆画が存在する。次の三種類がそれで、この筆画が文字の中に含まれている場合は、画数の多少による字幅の変化の説明は当てはまらない。書きにくい筆画を含んでいるほうが幅広となる。

但し、書きにくい筆画を含んでいても、前述の画数の多少で説明した文字はここでは取り上げない。



九成宮醴泉銘にも、孔子廟堂碑にも当てはまる文字は次の通りである。

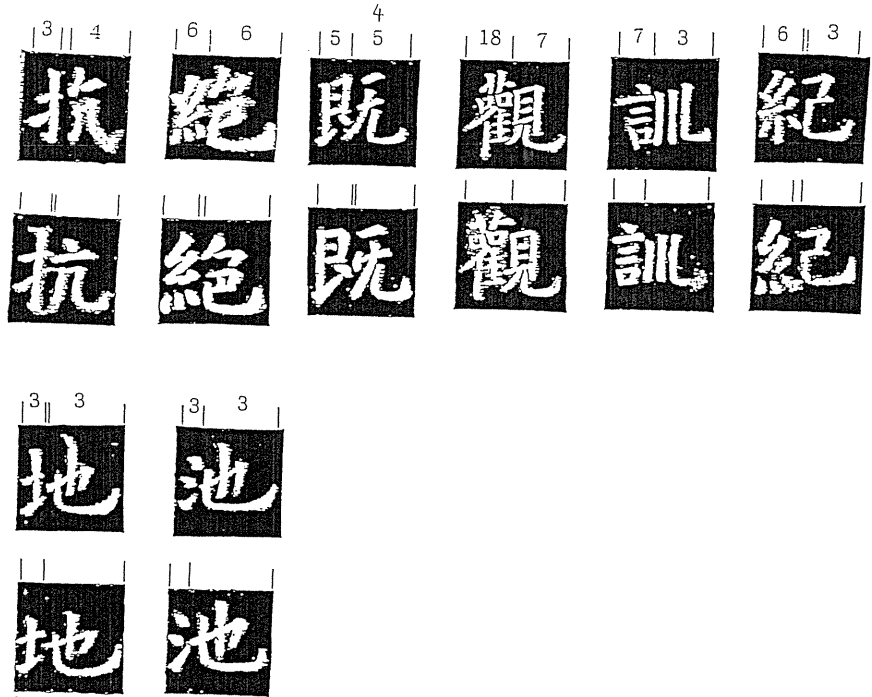


- ・「扶」は「扌」の3画目で幅広くできるが「夫」の左払いを2本の横画の中心より左寄りに書いたほうが整うため、右払いを張り出すことになり、同じ画数でも旁の幅が広がる。
- ・「終」は偏のほうが旁より1画多いが「冬」の左払いを短くし右払いを張り出すため旁の幅が広がる。
- ・「致」は偏のほうが旁より2画多いが「支」の右払いを張り出すため、旁の幅が広がる。また、偏の「土」は右上がりに「支」の縦画は横画より上に長く突き出すとよい。



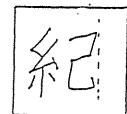
九成宮醴泉銘

孔子廟堂碑

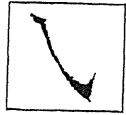


- ・「抗」は偏が3画、旁が4画とよく似た画数であるが九成宮醴泉銘は「ㄌ」、孔子廟堂碑は「ㄌ」となり右側に張り出してバランスを保っているため旁の幅が広がる。
- ・「絶」は偏も旁も6画であるが旁の「ㄌ」を思い切り伸ばしてからはねることにより旁の幅を広くして安定感とバランスを保っている。
- ・「既」も偏と旁がよく似た画数である。「絶」と同様「ㄌ」を張り出すことで安定感とバランスを保っている。
- ・「觀」は偏が18画、旁が7画と圧倒的に偏の画数が多いが旁の幅のほうが広い。「ㄌ」を右に長く張り出してからはねることによりバランスを保っている。「藿」の左下の縦画をいちばん下の横画より下に伸ばしていることもバランスを保つのに大切なことである。
- ・「訓」は偏7画、旁3画、旁の画数が少ないが幅が広がっている。「ㄌ」の横への張り出しは他の文字に比べて少ないが「言」とのバランスをうまくとっている。
- ・「紀」は旁のほうが偏より画数が少ないが旁の幅が広い。「ㄌ」を思い切り横に伸ばしてからのはねる。

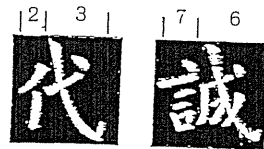
(悪い例)



- ・「地」と「池」はともに偏、旁とも3画であるが「ㄌ」を思い切り横に伸ばしてからのはねることにより空間を抱え込んでスケールを大きくしているので、自ずと旁の幅が広がる。



九成宮醴泉銘

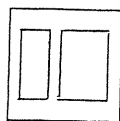


孔子廟堂碑

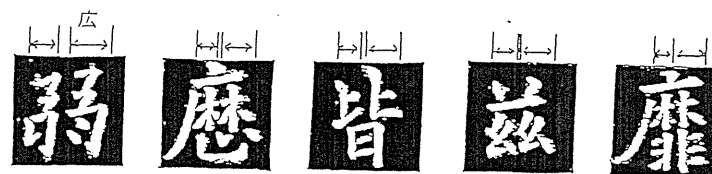


- ・「代」は偏と旁がよく似た画数であるが旁の幅がかなり広い。「ㄣ」がこの文字の主画になっている。
「弋」の横画を右上がりにし、横画より長く上に突き出し、文字全体のバランスを保っている。
- ・「誠」は旁の画数が少ないが幅が広い。「ㄣ」は「成」の2画目の横画より上に長く突き出し思い切り反らせてからはね、この文字を引き締めている。

※ 例外2 偏と旁で同じ形を繰り返す場合
右側の部分の幅を広くする。



九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



これも例外1と同様、右手で文字を書くことから生まれている。偏と旁を同じ幅にせず、旁の幅を広くすることは、文字を立体的に見せることにもなる。


- ・「弱」は九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑で横画の長さ、点の打ち方など異なる部分もあるが、右側の幅が広いところは共通している。「コ」の部分の横画は右上がりにする。九成宮醴泉銘は幅だけでなく高さも右側のほうを高くする。
- ・「歴」の中の部分、九成宮醴泉銘は「林」、孔子廟堂碑は「秝」と形は異なるが、いずれも右側の幅が広い。「林」「秝」は1画目の点位置よりやや右寄りに書かれているところ、2画目の横画が右上がりになっているところ、2画目の横画と3画目の左払いが接していないところも共通している。また、「止」の点を「林」「秝」の間にうまく入れている。
- ・「皆」の「比」の部分も右側の部分の幅を広くする。右側の「匕」が左側の「匕」より右上に位置しているところも共通している。
- ・「茲」の「幺」の部分も右側の幅が広い。「幺」の起筆部分が3画目の横画に接していない。または、ごく浅くしか接していないところも共通している。
- ・「靡」の「林」も右側の幅が広い。中の部分「林」「非」は1画目の点の位置の真下でなく、やや右寄りに書かれているところ、2画目の横画が右上がりになっているところ、2画目の横画と3画目の左払いが接していないところも共通している。

旁の画数による偏の形の変化

旁の画数が偏の画数より少ない場合、偏の幅を広くする。

旁の画数が偏の画数より多い場合、偏の幅を狭くする。

- ・ 文字の上段の数字は旁の画数
- ・ 文字の下段の数字は、文字全体の幅に対する偏の割合（％）

九成宮醴泉銘	² 	⁶ 	⁵ 	⁸ 	⁵ 	¹² 
	4 4 > 3 5	5 0 > 3 5	3 6 > 3 3			
孔子廟堂碑						
	3 3 > 2 6	5 4 > 3 6	3 6 > 3 4			
九成宮醴泉銘	³ 	¹² 	⁵ 	¹³ 		
	2 3 > 1 9	5 0 > 4 0				
孔子廟堂碑						
	2 2 > 2 1	5 0 > 4 6				

・「仁」「使」

旁の画数が「仁」は2画、「使」は6画、文字全体の幅に対する偏「イ」の割合は「仁」44%、「使」35%となっており、旁の画数の少ない「仁」のほうが偏の幅は広い。「仁」の偏の底は縦画、旁の底は横画なので旁の下に余白を作る。「使」は旁の上部が縦画なので偏より上に突き出す。

・「相」「棟」

旁の画数が「相」は5画、「棟」は8画、文字全体の幅に対する偏「木」の割合は「相」は50%と半分、「棟」は35%と3分の1になっている。他の部分については「偏と旁の高さについて」に記載。

・「怡」「懷」

旁の画数が「怡」は5画、「懷」は12画と差がある割に文字全体の幅に対する偏の割合は九成宮醴泉銘で36%、33%、孔子廟堂碑で36%、34%とあまり差がないのは「怡」は偏と旁の間をあけているためである。「懷」は偏と旁の間を詰めている。特に九成宮醴泉銘では偏と旁がうまく入り組むように書かれ、幅が広くなりすぎるのを防いでいる。他の部分の説明については「偏と旁の高さについて」に記載。

・「池」「潤」

旁の画数が「池」は3画、「潤」は12画と差がある割に、文字全体に対する偏の割合が九成宮醴泉銘で23%、19%、孔子廟堂碑22%、21%とあまり差がないのは、「池」の「也」の3画目が右に張り出しているためである。「也」の幅が広いので文字全体の幅が広くなり、「冫」の幅の割合はそれほど広くなる。「冫」の形が「池」は九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も2、3画目を1画目より左に出している。これは「也」とのバランスを取るためである。「潤」の「冫」は3つの画を縦に揃え、幅を狭くする工夫をしている。

・「神」「禮」

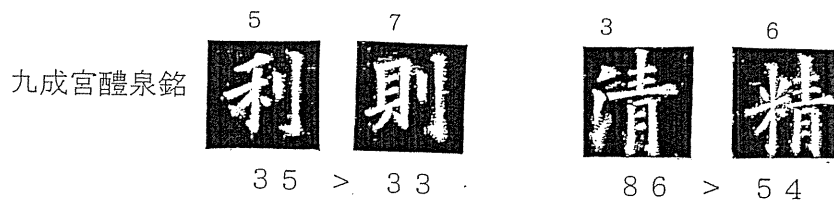
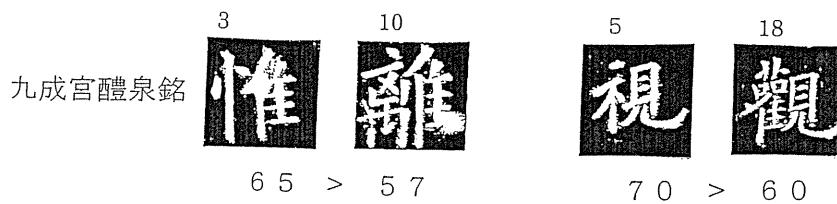
旁の画数が「神」は5画、「禮」は13画と差がある。九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑ともに「神」の偏「ネ」は文字全体の幅の半分を占めている。「禮」は九成宮醴泉銘40%、孔子廟堂碑46%と偏「ネ」の幅を「神」より狭くしている。「禮」の旁「豊」は3、4画目の縦画2本を偏より上に突き出す。偏旁の底は揃える。

偏の画数による旁の幅の変化

偏の画数が旁の画数より少ない場合、旁の幅を広くする。

偏の画数が旁の画数より多い場合、旁の幅を狭くする。

- ・ 文字の上段の数字は偏の画数
- ・ 文字の下段の数字は、文字全体の幅に対する旁の割合 (%)



・「惟」「離」

偏の画数が「惟」は3画、「離」は10画、「惟」の旁「隹」は3分の2近くを占めている。「離」の旁は半分くらいである。「隹」の2画目の縦画は最終画の横画より下に出るように書く。「惟」「離」ともに偏旁の高さは揃える。「卩」の1画目は3画目と離し、縦方向へ、2画目は3画目に接し横方向に書く。

・「視」「觀」

偏の画数が「視」は5画、「觀」は18画と差が大きい割に、九成宮醴泉銘が70%、60%、孔子廟堂碑が61%、58%とあまり差がないのは、旁「見」の最終画が右に張り出しているからである。「視」「觀」ともに旁の上下に余白を作る。ただし、孔子廟堂碑の「視」の底は揃っている。「見」の中の横画は右の縦画に接しない。「見」の2画目の縦の部分5画目の横画より下に出す。「瞿」は画と画とを少し離して書くことにより窮屈さをなくす。

・「利」「則」

偏の画数が5画、7画とあまり差がないので旁の幅も九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑いずれも35%、33%と差は少ないが、偏の画数の多いほうの旁の幅が狭くなっている。他の部分の説明は「1. 偏と旁の高さについて」に記載。

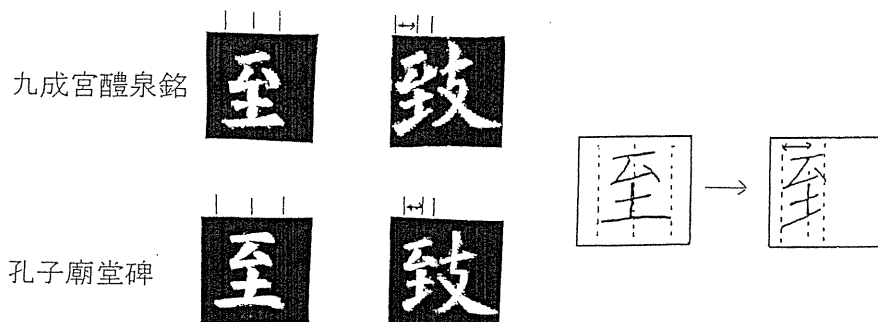
・「清」「精」

偏の画数「清」は3画、「精」は6画、旁の幅が九成宮醴泉銘は86%、54%、孔子廟堂碑は72%、61%となっている。九成宮醴泉銘の幅の違いが大きいのは「冫」が縦方向に書かれているので「青」が幅広くなっているためである。九成宮醴泉銘は「米」の3画目が左へ突き出しているので、「青」が54%と半分ほどになっている。孔子廟堂碑は「冫」が横方向に書かれていて、「米」の3画目は短めなので「清」「精」の幅の違いは小さくなっている。

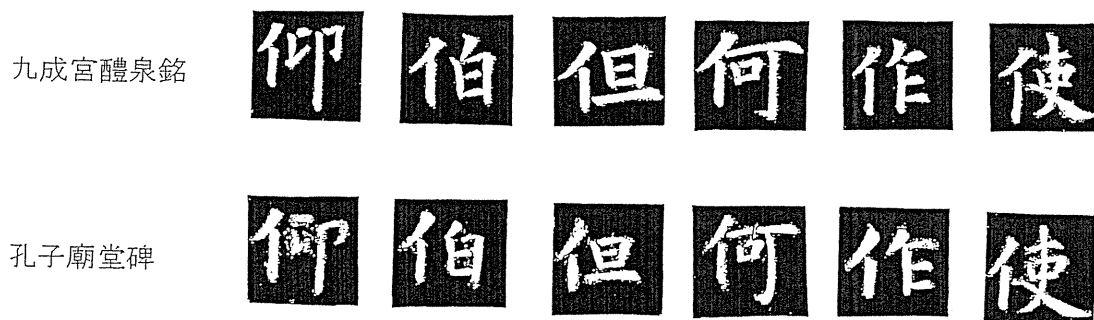
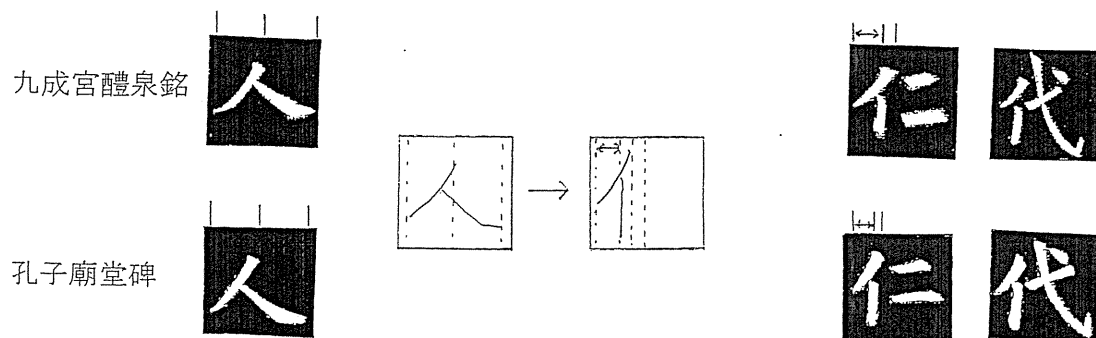
3. 単体から部分への形の変化

① 偏への変化

単独文字が偏になったとき、どこがどう変化するか。



・「至」は偏の部分の中心が右寄りになり、右端のラインが揃い気味になる。また、偏となった部分の横画の右上がりが強くなり、偏の最終画は「払い」となり旁へ続いていく筆画となる。

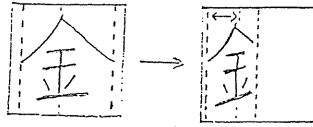


・「人」は1画目の左払いが短くなり角度が縦気味となる。2画目の右払いは縦画となり偏を支える。
「人」の場合1画目と2画目は深く接するが「亻」になると接し方は浅くなる。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑

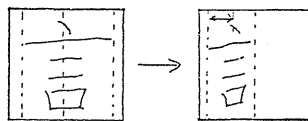


- ・「金」は2画目の右払いが短い「止め」となり、横画は右上がり、偏の中心は右寄りとなる。偏になったとき、「人」と3画目の横画の間はあまり詰めずに余裕をもたせる。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑

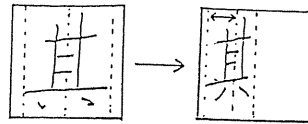


- ・「言」は2画目の横画が短くなるが3、4画目よりは長めにし、1画目の点は2画目の中心より右寄りに来るように書く。つまり、偏の中心は右寄りとなり右端は揃い気味となる。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑

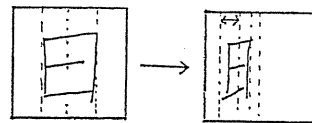


- ・「其」は偏になると6画目の横画が短くなる。7、8画目の「ハ」の間も狭くする。1、6画目の横画は左側に長く出し、旁側へ出す長さは短くする。これも中心が右寄りとなり右端のラインが揃い気味になる。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑

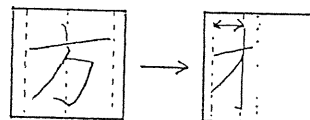


- ・「日」は偏になると幅の狭い縦長となる。4画目は右斜め上に払い旁に続くようにする。

九成宮醴泉銘



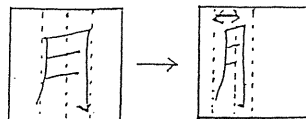
孔子廟堂碑



- ・「方」は偏になると活字では「方」のままだが、九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑では「才」の形になる。「才」の1画目の横画を短くし、2画目の縦画は1画目の右寄りで交わる。つまり、中心が右寄りになる。また、2画目は1画目の上に長く突き出るように書く。

九成宮醴泉銘  

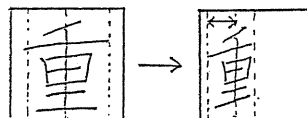
孔子廟堂碑  



- ・「月」は偏になると幅の狭い縦長となり、横画は右上がりとなる。中の2本目の横画は2本の縦画の真中付近の位置に書き足を長くする。また、中の2本の横画は2本の縦画のどちらかには接しないようにする。

九成宮醴泉銘  

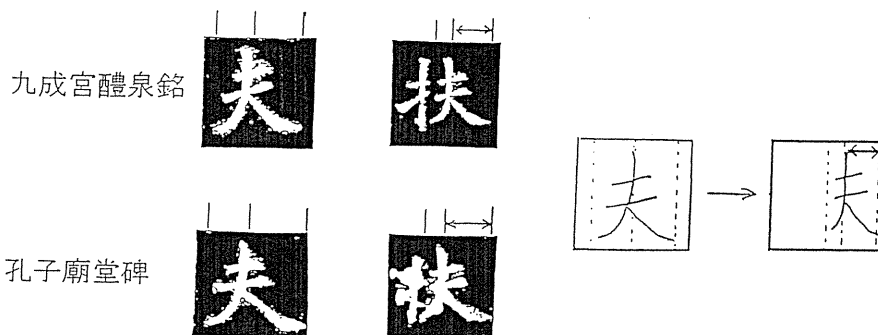
孔子廟堂碑  



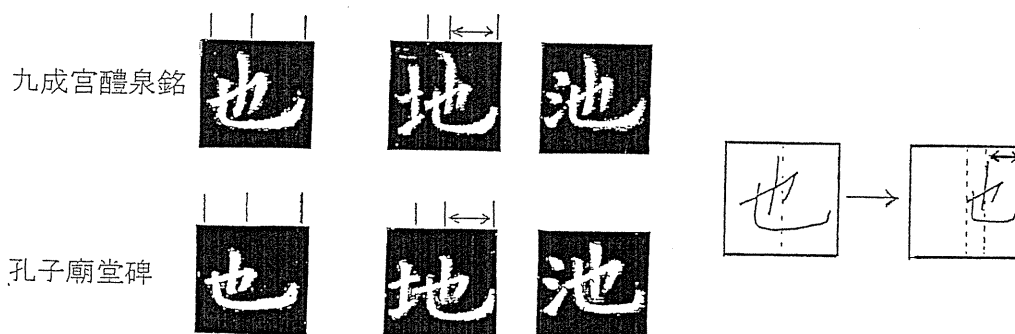
- ・「重」は偏になると全体的に幅が狭くなり、横画は右上がりとなる。2、8、9画目の横画は7画目の縦画と、中心より右寄りでおわる。つまり、偏の部分の中心が右寄りになり、右端のラインが揃い気味となる。

② 旁への変化

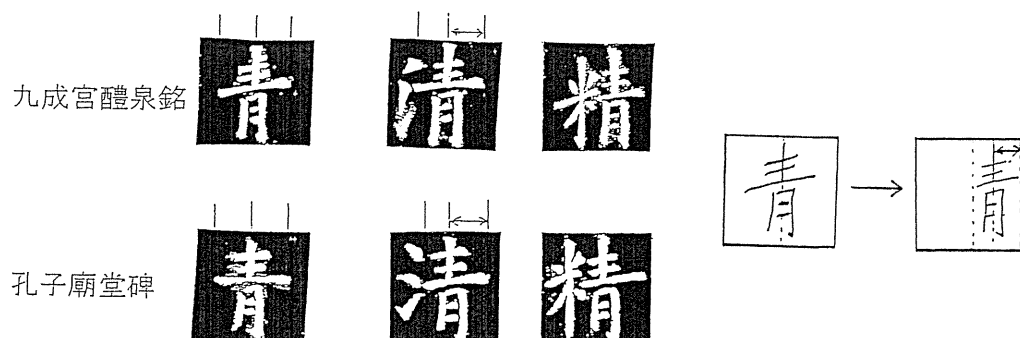
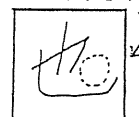
単独の文字が旁になったとき、どこがどう変化するか。



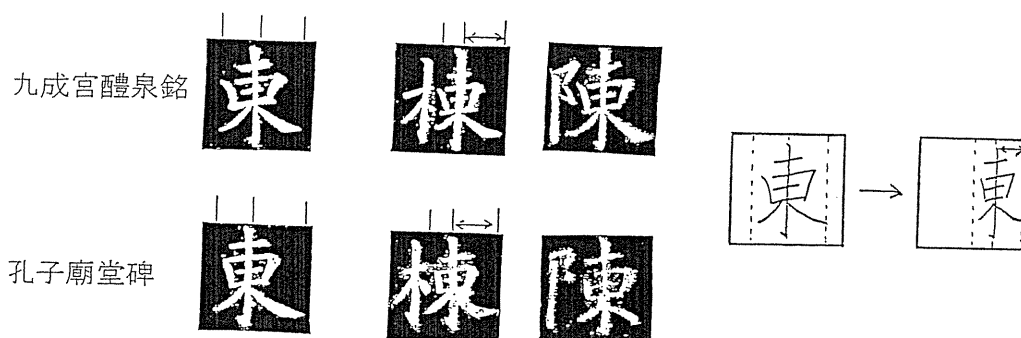
- ・「夫」が旁になったときは、2本の横画の左寄りで3画目の左払いが交わるようにする。左払いは単独のときほどは左側に出さない。つまり傍の中心は左寄りになる。また、傍の3画目の左払いが1画目の横画より上に長く突き出るようにする。



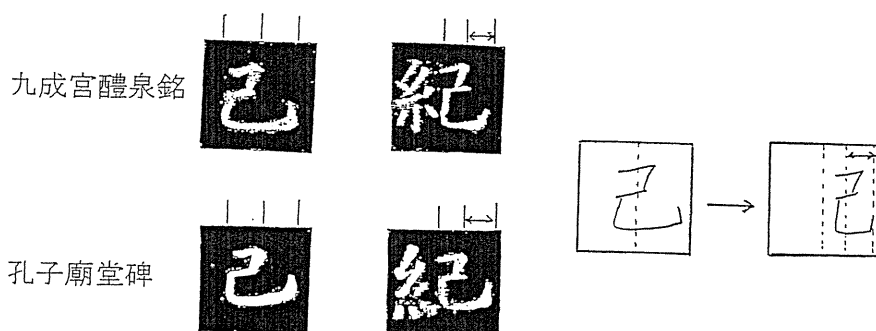
- ・「也」が旁になると、単独のときより幅が狭くなり「也」の1画目「ㄣ」と3画目「乚」の空間も狭くなる。



- ・「青」が旁になると、「𠂔」の4画目の横画が短めになる。「𠂔」の2画目の縦画は4画目の横画の中心より左寄りで接する。つまり、旁の中心は左へ寄る。(九成宮醴泉銘の「清」に関しては顕著でない。)「月」の中の2本の横画が2本の縦画のどちらか一方に接しないところは、単独、旁ともに共通している。



- ・「東」が旁になると、左払いが短めになる。6画目の縦画は他の部分の中心より左寄りで交わる。つまり、旁の中心は左へ寄る。

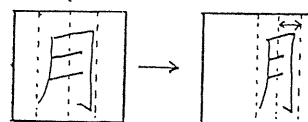


- ・「己」が旁になると、全体の幅が狭くなる。右側の空間も狭くなるが、「コ」より「し」を右に出すところは変わらない。「己」の1画目の起筆と2画目の起筆を縦に揃える。単独の場合は2画目の起筆のほうが左へ出ている。

九成宮醴泉銘

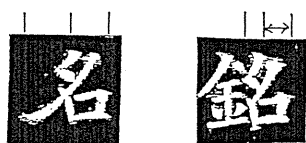


孔子廟堂碑

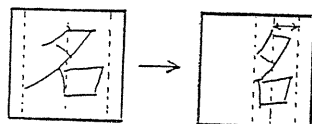
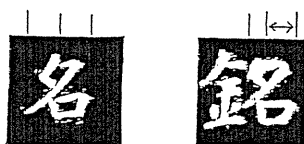


- ・「月」が旁になると、全体的に幅が狭く細長くなる。中の2本の横画は右側の縦画に接しないか、ごく浅く接するようにする点は単独の「月」と共通している。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



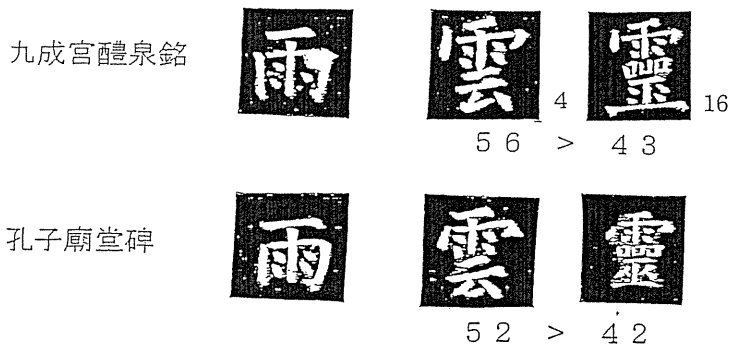
- ・「名」が旁になると、2画目の左払いがかなり短くなる。それは偏とぶつからないためで、九成宮醴泉銘の場合は「夕」が縦気味になって「夕」と「口」の左側が揃っている。つまり、中心が左へ寄っている。

③ 冠への変化

脚部分の画数が少ない場合、冠の背を高くする。

脚部分の画数が多い場合、冠の背を低くする。

- ・ 文字の右側の数字は脚部分の画数
- ・ 文字の下段の数字は文字全体の高さに対する冠部分の割合






- ・「雨」は単独のとき、1画目の横画より「冂」の幅を広くする。1画目と4画目、2画目と3画目は接しない。1画目と2画目の間は「冂」の高さより狭くする。「折れ」から「はね」まで九成宮醴泉銘は直線的、孔子廟堂碑は曲線的である点は異なっているが、3画目の「折れ」の後内側へ傾けてからはねるところは共通している。中の「レ」は4画目の縦画の左側より右側のほうがやや上に位置している。1画目の横画に対して「雨」がやや右寄りに位置している。
- ・「雨」が冠になったとき、1画目と4画目、2画目と3画目が接しないところは単独の場合と同じである。2画目の折れの後はそのまま内側に短く払う。「レ」の左右の位置関係は単独の場合と同じである。脚部分をやや右上がりに書くためには必然的といえる。
- ・「雲」は脚部分の画数が4画なので、「雨」の部分の背の高さは、九成宮醴泉銘で56%、孔子廟堂碑で52%と文字全体の高さの半分よりやや長くなっている。文字の幅は「雨」のほうが「云」より幅広い。1画目の横画に対して「雨」がやや右寄りに位置しているところは、単独の「雨」と同様である。また、「云」も「雨」よりやや右寄りに位置している。
- ・「靈」は脚部分の画数が16画と多いので、「雨」の部分は背が低くなり、九成宮醴泉銘で43%、孔子廟堂碑で42%と文字全体の高さの半分よりやや短く収めている。1画目の横画に対して「雨」がやや右寄りに位置しているところは単独の「雨」と同様である。また、脚の部分も「雨」よりやや右寄りに位置している。

④ 脚への変化

冠部分の画数が少ない場合、脚の背を高くする。

冠部分の画数が多い場合、脚の背を低くする。

- ・文字の右側の数字は冠部分の画数
- ・文字の下段の数字は文字全体の高さに対する脚部分の割合

九成宮醴泉銘    9
4 4 > 4 2

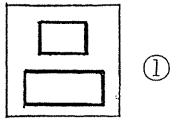
孔子廟堂碑    9
4 8 > 4 6

九成宮醴泉銘    8
6 7 > 4 0

孔子廟堂碑    8
7 1 > 4 3

- ・「王」は脚になると4画目の横画が長くなる。それは冠部分を支えて安定させるためである。
- ・「皇」は「白」の1、2、3画目の画の接し方は九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑で異なっているが、「白」の中の横画が右側の縦画に接していないところは共通している。これは、囲まれた中を窮屈にしないためである。「王」は「白」の真下でなくやや右寄りに位置している。
- ・「聖」は「耳」の1画目と2画目が接していない。5画目を右上がりに払い、6画目の縦画は1画目の横画の中央で浅く接している。「口」は「耳」より背を低くし「口」の上部に余白を作る。「皇」の上部は5画、「聖」の上部は9画、上部の画数の多い「聖」の下部「王」の文字全体に占める割合は42、46%、と「皇」の44、48%より低い。

- ・「至」は脚になると横画4本の間隔が狭くなる。「云」の中の空間を広くするため、「室」になったとき、「ム」の点の打ち方を変えている。これは、文字の中に風を通すためである。「ウ」と「云」の間にも余白を作る。「至」の占める割合は文字全体の3分の2以上の67、71%である。
- ・「臺」は冠部分の画数が多いので「室」よりさらに「至」の横画の間隔を縮める。横画が8本重なるので画を細くする、2画目の縦画を上突き出す、「ワ」の幅を広くするなどの工夫をして窮屈にならないようにしている。上部の画数が8画と多いので下部の「至」の占める割合は文字全体の半分以下40、43%となっている。

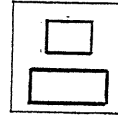


※ 同じ形を縦に二つ書く場合は、上部を小さく下部を大きく書く。

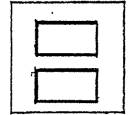
九成宮醴泉銘



良い例



悪い例



孔子廟堂碑



- ・「炎」は「火」を縦に重ねている。上の「火」は3、4画目を短くし「㇀」よりも内側に収める。ただし、3画目を上に突き出す。下の「火」は「㇀」より幅広くなるよう左払い、右払いを伸び伸びと書く。特に右払いを長くするため、うえの「火」に対して下の「火」は右寄りとなる。

九成宮醴泉銘

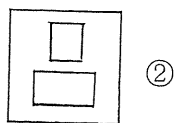


孔子廟堂碑



- ・「宮」は「口」を縦に重ねている。上の「口」は「㇀」との間をあけて書く。下の「口」は上の「口」よりやや右寄りに書く。「呂」は「㇀」の中に収まるようにする。
- ・「景」は「日」を縦に重ねている。上の「日」より下の「日」を幅広に書く。6画目の長い横画より下の部分は上の「日」よりやや右寄りに位置している。接し方等は「横画の強調」欄に記載。
- ・「師」は偏の部分に「口」を縦に重ねている。この場合は上の「口」より下の「口」を大きく書き、上の「口」の右側に余白を作る。

以上4文字について「同じ形を縦に二つ書く場合は、上部を小さく下部を大きく書く。」が九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

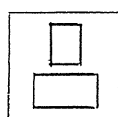


※ 字の下部で字幅が広がる場合は、予め上部を縦長に書いて引き締める。

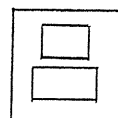
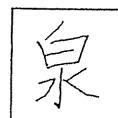
九成宮醴泉銘



良い例



悪い例



孔子廟堂碑



・「泉」は上部の「白」を縦長に、下部の「水」を横長に書き「白」の左右に余白を作る。「白」は1画目と3画目、2画目と3画目は接しない。中の横画は右側の縦画に接しない。「水」の縦画は「白」に接しないか、ごく浅く接する。「水」の左側の折れの部分は縦画に接しない。最終画の右払いが縦画に接する。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑

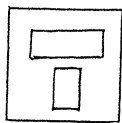


- ・「夏」は上部の「百」を縦長に、下部の「久」を横長に書く。「百」の1画目と2画目は接しないか、ごく浅く接する。「百」の中の横画2本は左右の縦画に接しないか、ごく浅く接する。「久」の左払い2本は終筆に行くに従って開いていく。「百」は右上がり書き、「久」の右払いで右下方向への力を加え、上部とのバランスを取る。
- ・「年」は横画3本のうち、上2本を短めに、3本目を長く書く。2、3画目より3、5画目の間隔をあけ、4画目の点を打っても窮屈にならないようにする。4画目の点は他の画に接しない。
- ・「是」は上部の「日」を縦長に、下部の「疋」を横長に書く。「疋」は「日」の真下よりやや右寄りに書き、最終画の上の部分に大きな空間を作る。「疋」の3画目の短い左払いは2画目に接しないか浅く接する。4、5画目の左払いと右払いも浅く接する。
- ・「無」は3本の横画のうち2本を短めに3本目を長くし3本目の横画の幅より狭い範囲に「乚」を書く。「一」に対して下の部分はやや右寄りに位置する。他の部分については「横画の強調」の欄に記載。
- ・「爰」は上部の「𠂔」を縦長に書き、下部の「友」を横長に書く。「友」の左払い2本はだんだん開いていく。2本目の左払いは他の画に接しない。最終画の右払いを伸ばし、その上に大きな空間を作る。
- ・「皇」は「白」の1、2、3画目の画の接し方は九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑で異なっているが、「白」の中の横画が右側の縦画に接していないところは共通している。これは、囲まれた中を窮屈にしないためである。「王」は「白」の真下でなくやや右寄りに位置している。

次の3文字は傍の部分の上下関係について記す。

- ・「後」は傍の上の部分「彡」を縦長に、下部の「久」を横長に書く。傍の左端は揃い気味にし、右へ次第に張り出していき、最終画の右払いの上に空間を作る。
- ・「流」は傍の上の部分「ㄥ」を縦長に、下部の「川」を横長に書く。傍の左端は揃い気味にし、「川」の最終画を右寄りに張り出し「ㄥ」の右側に空間を作る。
- ・「淳」は傍の上の部分「冂」を縦長に、下部の「子」を横長に書く。傍の左端は揃い気味にし「冂」の2画目と「子」の3画目の横画を長めにする。

以上10文字について「字の下部で字幅が広がる場合は、予め上部を縦長に書いて引き締める。」が九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

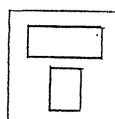
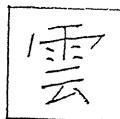


※ 上部の横幅が広い文字の場合は、下部を縦長に書いて引き締める。

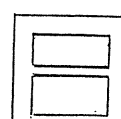
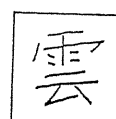
九成宮醴泉銘



良い例



悪い例



孔子廟堂碑



・「雲」は「雨」の幅が広いので、下部の「云」を縦長に書いて引き締める。
「雨」の画の接し方については「冠への変化」に記載。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



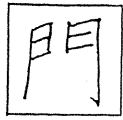
九成宮醴泉銘



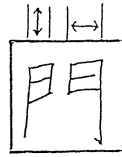
孔子廟堂碑



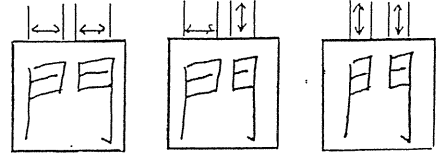
- ・「乎」は上部の4画目が長いので5画目を長く反らせて引き締める。5画目のはねの方向は両法帖で異なるが、4画目より下の部分、足を長くする点は共通している。1画目と5画目は接しないか浅く接する。「ノ」は他の画に接しないか浅く接する。
- ・「實」は「ㄣ」の下「冂」の4画目の横画が長いので「貝」を「冂」より幅を狭くして引き締める。「ㄣ」の1画目が3画目と九成宮醴泉銘は交わり、孔子廟堂碑は接しているが1画目の位置が3画目の中心より左寄りであることは共通している。また、2画目が左方向へ向いている。「ㄣ」に対して「冂」が真下でなく右寄りに位置している。「貝」は九成宮醴泉銘では「ㄣ」の真下、孔子廟堂碑では「冂」よりさらに右寄りに位置している。
- ・「帝」は5、6画目に当たる「冂」の幅が広いので、「巾」の部分の幅を狭くして引き締める。3、4画目「ノ」は2、6画目と接しないか浅く接する。9画目の縦画は1画目の点の真下でなく右寄りに位置している。
- ・「當」は「当」の部分の幅が広いので、「冂」の部分の幅を狭くして引き締める。「当」の1画目の短い縦画は5画目の横画の中央よりやや左で接している。2、3画目の「ノ」は他の画に接しないか浅く接する。「口」は「当」に対して九成宮醴泉銘ではやや左寄り、孔子廟堂碑ではやや右寄りだが、「田」が「口」の右寄りに位置しているところは共通している。
- ・「室」は「ㄣ」の幅が広いので、「至」を「ㄣ」の中にすっぽり入れるようにし、「ㄣ」と「至」の間に余白を作り「至」を縦長にする。
- ・「聖」は「聖」の部分の幅が広いので、「王」の幅を狭くして引き締める。接し方や位置関係については「脚への変化」に記載。



良い例



悪い例



※ 左方は縦長、右方は横長に構えるようにする。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



- ・「間」「聞」はもちろんのこと、「潤」のように傍の部分に「門」がある場合でも左方を縦長に右方を横長に構えるようにする。「門」の1画目と2、3、4画目は接しないか浅く接する。7画目は6画目の縦画部分に接しない。8画目も6画目に接しないか、ごく浅く接する。中の部分「月」「耳」「王」は「門」の両足より内側に収まるようにする。

以上「門」のつく3文字について「左方は縦長、右方は横長に構えるようにする。」が、九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

第 2 章

他の観点による九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑の同文字比較、分析

4. 横画の強調

文字の中に複数の横画があるとき、中心になる1本だけを長くし、他の横画は短めに抑える。

九成宮醴泉銘



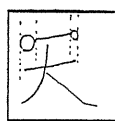
孔子廟堂碑



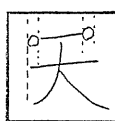
- ・「天」は2画目を長くし、左払い、右払いを広げ易くする。3画目の左払いの起筆は1画目に接しない。1画目と2画目の起筆、終筆の位置は、2画目が1画目より左へ多く出るように書く。3画目は1画目の左寄りから出て2画目の中央付近を通る。
- ・「夫」は2画目を長くし、「天」と同様3画目は1画目の左寄りから出て2画目の中央付近を通る。つまり、2画目が1画目より左へ多く出るようにする。



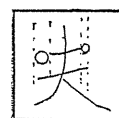
良い例



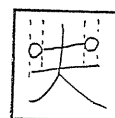
悪い例



良い例



悪い例



- ・「丹」は「冂」で囲まれた部分を分割するように、4画目を横に長く貫く。3画目の点の位置、九成宮醴泉銘は真ん中、孔子廟堂碑は下寄りであるが、4画目が2本の足の半分よりやや上で交わり、横画より下の部分を長くするところは共通している。
- ・「五」は3画目の形が九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑で異なるが、4画目を長くし、安定感を出しているところは共通している。2画目は1、4画目に浅く接し、3画目は4画目に深く接する。
- ・「丘」は5画目を長くし、上部を支える。1画目の左払いと2画目の縦画は接しない。2画目と3画目の横画、3画目と4画目も接しない。4画目と5画目は軽く接する。画と画を接しないことにより窮屈さをなくす。1画目と3画目の距離を3画目と5画目の距離よりやや長くする。5画目の位置が文字の上部に対して九成宮醴泉銘は右寄り、孔子廟堂碑は左寄りである点は異なっているが、5画目を長くし上部を支えている点は共通している。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



- ・「去」は3画目を長くし、上部と下部のバランスを取る。3画目と4画目は浅く接する。4画目の折れの後には真横でなく右斜め上方向に書く。最終画の点は接しないか浅く接することで「ム」の中を広くする。
- ・「年」は5画目を長くし、6画目の縦画とのバランスを取る。2画目の横画と6画目の縦画は浅く接する。2、3画目の間より3、5画目の間を広く取る。3本の横画は仰、平、覆とする。
- ・「百」は1画目を長くし、「白」の部分を支える。2、3、4画目の接し方は両法帖で異なるが、「日」の中の横画が右の縦画に接しないところは共通している。4画目は6画目より少し下に出す。
- ・「言」は2画目を長くし、下部を真中に据えることにより安定感を出す。3、4画目と「口」は同じくらいの幅にする。「口」の最終画は右側に少し出す。1画目の点が2画目の中心に来るように2画目を書く。
- ・「事」は1画目を長くし、8画目の縦画とのバランスを取る。8画目の縦画は「口」の右寄りで交わり、「ヨ」とは左寄りで交わる。縦画は上にも下にも長く突き出す。「口」の1画目と2画目は接しない。「ヨ」の2画目は1画目の縦画と接しない。これは、文字の中を窮屈にしないためである。
- ・「典」は6画目を長くし、安定感を出す。1、2画目は浅く接するか少し離す。5画目の横画は右側の縦画に接しない。3、4画目は2画目より上に長く突き出す。7、8画目の「乚」は間をあげ、幅、高さとも十分に取る。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



- ・「奉」の横画は3画目を長くし、並び方は「天」「夫」同様3本の横画の終筆部分は揃い気味になり、2、3画目の始筆部分は1画目より左側に出す。左払いの終筆の位置は右払いの終筆の位置より高い位置で終える。中に入る「丰」は横画を短くし、縦画を長く下へ突き出す。
- ・「昔」は上部が両法帖で異なるが、5（4）画目を長くし、上部と下部のバランスを取るところは共通している。「日」の中の横画は縦画に接しない。「日」の2画目の縦画は4画目の横画より下に出す。
- ・「並」は7画目を長くし、安定を図る。2画目の短い払いは3画目に浅く接するか少し離す。4、5画目の縦画は3画目に浅く接するか少し離し8画目には深く接する。6、7画目の「ノ」は2本の縦画に接しない。
- ・「若」は3画目の横画を短くし5画目の横画を長くする。3画目の横画と4画目の左払いは接しない。「口」の1画目と2画目も接しない。また「口」全体も左払いに接しない。4画目は5画目の中心より左で交わる。
- ・「長」は5画目の横画を長くする。3、4画目の横画は1画目の縦画に接しないか浅く接する。1画目の縦画は4画目の長い横画と深く接する。8画目の右払いは5画目より右に伸び伸びと出す。
- ・「青」は「丰」の部分、九成宮醴泉銘で縦画は3本の横画の右寄りを通り、孔子廟堂碑では中央を通っているが、4画目の横画を長くしているところは共通している。「月」の中の横画は左右の縦画に接しないか浅く接する。「月」の位置、九成宮醴泉銘では「丰」の縦画の左寄り、孔子廟堂碑では真下に位置している。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



- ・「其」の6画目、九成宮醴泉銘では上部の中央、孔子廟堂碑では左寄りに位置しているが6画目を長くしているところは共通している。1画目は2、3画目の縦画の両側から少しだけ出るようにする。2、3画目は6画目と深く接する。7、8画目「㇏」は他の画と離し間をあけて安定感を出す。
- ・「海」は「毎」の6画目の横画をほぼ水平に長くし、「母」の左右に出す。つまり、「㇏」と「毎」の間に余白を作る。「毎」の1、2画目の接し方は九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑とで異なるが、2画目の短い横画が右上がりになっているところは共通している。文字の上部の位置関係は「㇏」より「毎」のほうが高い位置から書き始めている。
- ・「書」は2画目を長くし他はほぼ同じくらいの長さで揃える。1画目はやや右下がり書き始め、1、2、3画目の間をやや広く取り、3、4、5画目の間はそれより狭くする。「日」の中の横画は右側の縦画に接しないことで窮屈さを出さないようにする。
- ・「莫」は9画目の横画を長くする。「日」の中の横画は右側の縦画に接しない。10画目の左払い「㇏」に接しない。11画目の点も他の画に接しない。10、11画目「㇏」の間をあけ、安定感を出す。
- ・「無」は8画目の横画を長くする。1、2画目の接し方は九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑とで異なるが、4、5、6、7画目の縦画が2画目の横画に接しないところは共通している。逆に8画目には深く接している。「㇏」は上部よりやや右寄りに位置し、上の横画に接しない。4つの点の向きを放射状に変えて変化を出す。
- ・「貴」は5画目の横画を長くする。「貝」の中の横画は右側の縦画に接しない。また「貝」の5画目の横画は1画目より左側に出し、2画目の縦画は5画目より下に出す。「ハ」の左側は上の画に接し、右側は5画目に接しない。「口」の高さより「口」と5画目の横画の間を狭くする。これは囲まれた中は狭く見え、外に通じている画は広がりを感じることができるからである。

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



- ・「黄」は5画目の横画を長くする。「田」または「由」の中の横画は右側の縦画に接しない。「ハ」はどの画とも接することなく、間を広げ安定感を出す。
- ・「景」は6画目の横画を長くする。二つの「日」の中の横画は右側の縦画に接しない。11画目の「小」のまん中の短い縦画は「日」に深く接している。「ハ」は間をあけてバランスを取り、11画目より下に出ないようにする。2つある「日」は上部より下部を横長にする。
- ・「肅」は3画目の横画を長くする。1画目の幅の左右に長く出す。下の部分は画と画の間に余白を取り、込み入った中に風を入れるようにする。
- ・「臺」は「冂」の横画部分を長くする。「土」「口」は同じくらいの幅にする。「口」や「ム」の部分の画を離し、窮屈さをなくす。
- ・「響」は「音」の5画目の横画を長くする。「郷」の「艮」の背を低くして上に上げ、くぼみに「音」の1画目の点が入り込むように書く。「音」の3、4画目は2画目に浅く接する。「日」の横画は右側の縦画に接しない。

以上28文字について「文字の中に複数の横画があるとき、中心になる1本だけを長くし、他の横画は短めに抑える。」が九成宮醴泉銘にも孔子廟堂碑にも当てはまる。

5. 横画の反り具合

横画の本数に応じて変化させる。

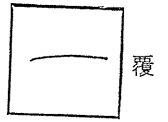
原則として横画1本は覆、2本は上から仰・覆、3本は上から仰・平・覆とする。

(1) 横画1本

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



- ・「一」、九成宮醴泉銘は起筆から終筆までほぼ同じ太さ、孔子廟堂碑は少しずつ太くしていくが、いずれも覆に作る。
- ・「上」、2画目の形が両法帖で異なり、1、2画目、九成宮醴泉銘は浅く接し、孔子廟堂碑は深く接しているが、3画目の横画を長くし、覆に作っているところは共通している。
- ・「不」、九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も1画目を覆に作る。1画目と2画目が浅く接している点、2画目を1画目の中心よりやや右寄りの位置からかきはじめている点、4画目は他の画に接しない点も共通している。
- ・「乎」、4画目の横画は九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も覆の形とする。1画目と5画目は浅く接するか少し離す。「い」も他の画に浅く接するか少し離す。5画目は4画目の上部より下部を長くしている。最後のはねる方向は、九成宮醴泉銘は左方向、孔子廟堂碑は左下方向と異なっているが4画目より下の部分を長くしているところは共通している。
- ・「六」、2画目の横画が九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も覆となっている。1、2画目、九成宮醴泉銘は深く接しているが、孔子廟堂碑は離れている。1画目が2画目の左寄りに位置しているところは共通している。3、4画目の「ハ」を九成宮醴泉銘は縦気味にしているので文字全体の高さがある。九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も「ハ」の部分は1画目に対して右寄りになっているところは共通している。
- ・「千」、2画目の横画が九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も覆となっている。1、3画目、浅く接するか少し離す。3画目は1、2画目の間隔より下に長く出す。

九成宮醴泉銘

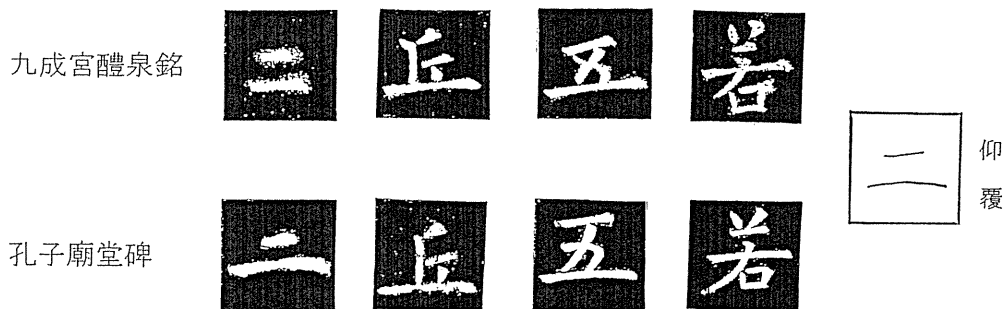


孔子廟堂碑



- ・「所」、1画目の横画が九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も覆となっている。九成宮醴泉銘は1画目の長さより下の部分の幅が広いが、孔子廟堂碑は1画目の下に他の部分が収まっている。1画目の他の画が接していない点、「𠂔」より「𠂔」のほうが下がっている点は共通している。
- ・「方」の2画目の横画が九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も覆となっている。1画目と2画目、九成宮醴泉銘は接し、孔子廟堂碑は離れている。2画目の中央に1画目の点があり、2画目と4画目が浅く接しているところが共通している。
- ・「玄」の2画目の横画が九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も覆となっている。「𠂔」の形は異なるが、1画目が2画目のやや左で接し、「𠂔」の位置がやや右寄りに位置している点は共通している。
- ・「赫」、両法帖で全体の形は異なるが、5画目の横画が九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も覆となっている点は共通している。4画目「ノ」と5画目が浅く接しているところ、下部の「小」または「𠂔」が5画目に接していないところは共通している。

(2) 横画 2 本



- ・「二」、画の長さ、1 画目は九成宮醴泉銘も孔子廟堂碑も同じくらいの長さであるが、2 画目、孔子廟堂碑は九成宮醴泉銘の倍ほど長い。1、2 画目の距離は九成宮醴泉銘より孔子廟堂碑のほうが接近しているが、1 画目仰、2 画目覆となっている点は共通している。
- ・「丘」、1、2 画目が接していない点、2、3 画目が接していない点、3 画目の横画がやや右上がり、4 画目が他の画に浅く接するか少し離れている点、4 画目は 5 画目と浅く接している点、そして、3 画目が仰、5 画目が覆となっている点が共通している。異なる点は 1～4 画目の部分が、九成宮醴泉銘は 5 画目の左寄りに、孔子廟堂碑は右寄りに位置しているところである。
- ・「五」、1、2 画目は浅く接し、1 画目の中心より右寄りに 2 画目の起筆がある点、2、4 画目は接していない点、3、4 画目は深く接している点、そして、1 画目仰、4 画目覆となっている点が共通している。3 画目の終筆の位置、九成宮醴泉銘は 4 画目の中心より右寄り、孔子廟堂碑は中心で接している点が異なる。つまり、1、2、3 画目が九成宮醴泉銘は 4 画目の真上に、孔子廟堂碑は左寄りに位置している。
- ・「若」、3 画目が仰、5 画目が覆となっている。1、2 画目の「ノ」と 3 画目、浅く接するか少し離れている点、3、4 画目が離れている点、「口」の 1、2 画目が離れている点、「口」が 4 画目の払いと離れている点、左払いが 5 画目の中心より左で交わっている点が共通している。異なる点は、九成宮醴泉銘の 4 画目の左払いが短めで「口」が文字の底になっているが、孔子廟堂碑は左払いが長めで「口」が払いの終筆より上に位置している点である。

(3) 横画3本

九成宮醴泉銘



孔子廟堂碑



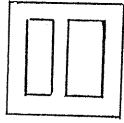
仰
平
覆

- ・「年」2、3、5画目を上から仰・平・覆とする。1画目の左払いと2画目、2画目と6画目の縦画は浅く接する。6画目は2画目の起筆付近で接し、3画目の中心より右で交わり、5画目とは中心付近で交わる。2、3画目の間より3、5画目の間を広く取り、4画目の点の上部に余白を作る。
- ・「皇」は、「王」の1、3、4画目を仰・平・覆に作る。「白」の接し方、「王」は「白」より右寄りに位置していることについては「脚への変化」に記載。

第 3 章

九成宮醴泉銘、真草千字文（智永）楷書の比較、分析

絵画との比較



◎ 同じ形が横に二つ並ぶとき、左より右の部分の幅を広くする。

九成宮醴泉銘



真草千字文



・「比」

「比」が文字の上にある場合「皆」、右上にある場合「階」「陞」、下にある場合「昆」、旁になっている場合「枇」、いずれも右の「匕」の幅が広がっている。左の部分は3画目を右上にはね上げ「匕」の形にし、幅を狭くしている。

九成宮醴泉銘



真草千字文



・「兹」

「兹」が脚になる場合「兹」、上中下のまん中にある場合「丝」「慈」、左の「幺」より右の「幺」の幅が広い。

九成宮醴泉銘



真草千字文



・「麻」

脚に「正」「非」「手」「石」「糸」といろいろな形が来ても「林」の部分は4画目を短くして幅を狭くし、8画目を右下方向へ張り出し、幅を広くしている。そのほかに、「广」の2画目と3画目を少し離しているところも共通している。

九成宮醴泉銘



真草千字文



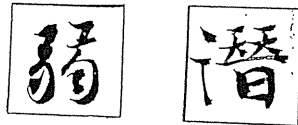
・「熒」

冠の部分に「火」が二つ並んでいる。4画目を縦気味に短くして幅を狭くし、8画目を右下に張り出し幅を広くしている。「熒」が傍の一部の冠になっても同様である。「熒」の下の「冂」の部分は1画目と2画目が接していないことも共通している。

九成宮醴泉銘



真草千字文



・「弱」「潜」

「弱」、九成宮醴泉銘では点の部分を行書のように続けている（左側）か、離している（右側）かで異なるが、右側のほうが幅広い。真草千字文は全体的に行書気味であるが右側の幅が広いだけでなく左側のほうがよりくずしてあるところも九成宮醴泉銘と共通している。

「潜」、旁の上部が九成宮醴泉銘と真草千字文とで形が異なるが、右側が幅広いことは共通している。「日」の幅が「𠂔」の幅より狭くなっているところも共通している。

◎ 同じ形を縦に二つ書く場合は、上部を小さく、下部を大きく書くことは九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑でも言えた（p.38 参照）が、真草千字文でも言える。

九成宮醴泉銘



真草千字文

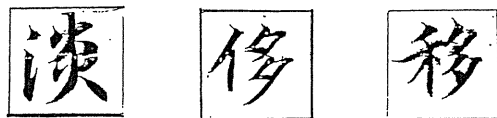


・「宮」「官」は上部の「口」より下部の「口」ほうが大きい。「師」のように偏になっているときも、「阜」のように上部にあるときも、「歸」のように偏の一部になっているときも同様のことが言える。「宮」「官」は「ㇿ」の1画目の点の位置が3画目の横画部分の中心より左に寄っているところ、2、3画目が接していないところも九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑と共通している。

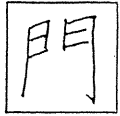
九成宮醴泉銘



真草千字文



・「炎」は「淡」のように旁になっても下部のほうが大きい。「炎」の4画目を短めにし、8画目を長めにしている。「侈」は旁になっても「走」がついても下部のほうが大きい。「侈」の2画目の払い部分を短くし、5画目の払い部分を長めにしている。



九成宮醴泉銘



真草千字文



九成宮醴泉銘



真草千字文



・「門」は左側の「日」部分を縦長に、右側の「日」部分を横長にすることは九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑でも言えた（p.43 参照）が、真草千字文でも言える。

特に真草千字文では1画目と2画目の間を大きくあけているのが特徴である。「門」の3画目の短い横画は1画目の縦画に接していない。7画目の短い横画も6画目の縦画部分に接していない。このように、囲まれた中が窮屈にならないようにうまく余白を取っているところも九成宮醴泉銘や孔子廟堂碑と共通している。真草千字文では「卩」がついた「蘭」「蘭」でも「門」の部分は同様のことが言える。

絵画との比較

人物画のなかに、真正面から描かれているのではなく、顔の斜め左側から描かれたものが多く見受けられる。顔の右半分（向かって左側）が狭く、左半分（向かって右側）が広く描かれている。この角度が美しいと考える画家の感性によるものである。

これは文字においての「例外2 偏と旁で同じ形を繰り返す場合、右側の幅を広く書く。p. 23 参照」ことと共通している。



「モナリザ」

レオナルド・ダ・ヴィンチ



「テレーズ・ベラルール」

ピエール＝オーギュスト・ルノワール



「タンギー爺さん」

フィンセント・ファン・ゴッホ



「自画像」

フィンセント・ファン・ゴッホ

結論

第1章「文字造形の一考察—九成宮醴泉銘—」の観点に基づいた九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の同文字比較では、次のことがわかった。

偏と旁の高さについて

①偏の底の線は横画で旁の底の線は縦画である場合、偏の下に余白を作るとよい。

(ア) 旁の上部が横画の場合

(イ) 旁の上部が縦画の場合

(ウ) 両法帖で旁の位置が異なる場合

その結果「謂」など10文字について①が当てはまった。

②底部が偏は縦画、旁が横画の場合は、旁の下に余白を作るとよい。という観点にたいしては「相」など11文字について当てはまった。

③底部が偏も旁も横画の場合は偏の下に余白を作るとよい。という観点に対しては、「鏡」など4文字について比較、分析ができた。

④底部が偏も旁も縦画の場合は、偏の下に余白を作るとよい。

(ア) 旁の上部が縦画の場合、旁を偏より上から書き、偏の上にも余白を作る。

(イ) 偏の上部が縦画の場合、旁を偏より上から書き偏の上にも余白を作る。

(ウ) 両法帖で旁の位置が異なる場合

その結果、「仰」など8文字について④が当てはまった。

偏と旁の幅について

①偏と旁が同じ画数、あるいはよく似た画数の場合は、偏と旁を同じ幅にするとよい。という観点に対しては、「明」など10文字について①が当てはまった。

②旁の画数が偏の画数より多い場合は、旁の幅を広げて書くとよい。という観点に対しては、「清」など20文字について当てはまった。

③偏の画数が旁の画数より多い場合は、偏の幅を広げて書くとよい。という観点に対しては、「動」など8文字について当てはまった。

例外1として、右払いなどを含む文字「扶」など13文字について、例外2として、偏と旁で同じ形を繰り返す場合「弱」など5文字について比較、分析できた。また、旁の画数による偏の幅の変化では「仁」と「使」など5例を、偏の画数による旁の幅の変化では「惟」「離」など4例を挙げた。さらに、単体から部分への変化を偏で9例、旁で7例、冠で1例、脚で2例を示した。

共通点を調べていく中で相違点についても考察できた。九成宮醴泉銘では観点到てはまるが、孔子廟堂碑では当てはまらない、またはその逆もあったが、相違点に関しての考察は別の機会に譲ることとする。

第2章では、他の観点による比較、分析として、横画の強調、横画の反り具合を示した。横画の強調では29文字について、横画の反り具合については、横画1本で10文字、横画2本で4文字、横画3本で2文字の比較、分析ができた。

第3章では九成宮醴泉銘と智永の真草千字文の楷書との同文字比較を試みた。真草千字文の楷書は行書に近いものが多いが楷書である九成宮醴泉銘との共通点が多々あることに驚いた。さらに、絵画（肖像画）にも文字の造形上の特徴の一つである、扁と旁で同じ形を繰り返す場合右側の部分の幅を広くする、が現れていることを知り、研究の領域が広がった。

九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘と真草千字文、文字と絵画（肖像画）の比較を通して、造形的な共通点を分析することにより、普遍的なものが導き出せたといえる。

今後は他の楷書、行書、草書なども比較、分析し作品制作に役立てていきたいと考えている。

参考文献

- ・文字造形の一考察—九成宮醴泉銘— 福光幽石著
- ・中国法書選 31 九成宮醴泉銘 唐 欧陽詢 二玄社 1987（昭和 62）年
- ・中国法書選 32 孔子廟堂碑 唐 虞世南 二玄社 1988（昭和 63）年
- ・中国法書選 27 真草千字文 隋 智永 二玄社 1988（昭和 63）年
- ・中国法書ガイド 31 九成宮醴泉銘 唐 欧陽詢 二玄社 1987（昭和 62）年
- ・中国法書ガイド 32 孔子廟堂碑 唐 虞世南 二玄社 1988（昭和 63）年
- ・臨書を楽しむ 1 欧陽詢 九成宮醴泉銘 二玄社 2003（平成 15）年
- ・臨書を楽しむ 2 虞世南 孔子廟堂碑 二玄社 2003（平成 15）年
- ・書道技法講座 1 楷書 九成宮醴泉銘 欧陽詢 二玄社 1968（昭和 43）年
- ・書道技法講座 15 楷書 孔子廟堂碑 虞世南 二玄社 1971（昭和 46）
- ・書道全集 7 中国 7 隋・唐 I 平凡社 1955（昭和 30）年
- ・高等学校教科書 書道 I 東京書籍 2010（平成 22）年
- ・読売新聞額絵シリーズ

九成宮醴泉銘の書風作品

皇家貴主好神仙別業初開雲漢邊山出盡如
鳴鳳嶺池成不讓飲龍川粧樓翠幌教春住舞
閣金鋪借日懸敬從乘輿來此地稱觴獻壽樂
釣天吉事漁樵耕牧文場雪月風花

美智書

皇家貴主好神仙別業初開雲漢邊山出盡如
鳴鳳嶺池成不讓飲龍川粧樓翠幌教春住舞
閣金鋪借日懸敬從乘輿來此地稱觴獻壽樂
釣天吉事漁樵耕牧文場雪月風花

美智書

孔子廟堂碑の書風作品

作品の釈文

皇家貴主好神仙別業初開雲漢邊山出盡如
鳴鳳嶺池成不讓飲龍川粧樓翠幌教春住舞
閣金鋪借日懸敬從乘輿來此地稱觴獻壽樂
鈞天吉事漁樵耕牧文場雪月風花

出典

「皇々天」

「待宴安樂公主新宅応制」沈佺期
唐詩選（中）（岩波書店）

「吉々花」

十二字句

新註墨場必携（大文館書店）